

MESSAGE

Ministry of Internal Affairs and Communications

2023

一般職 入省案内

くらしの中に総務省

総務省は、日本全国にわたる基本的な仕組みから、国民の経済・社会活動に関わる諸制度を担う、国家の根本を支えている省庁です。その所掌範囲は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治(地方分権改革・地域活性化)や消防・救急行政、情報通信技術(ICT)を活用した成長戦略の実現と、多岐にわたっています。少子・高齢化の進展、地域間格差の拡大、国際競争力の強化など、我が国は多くの課題に直面しています。今後も私たちは、「総て」を「務める」省庁として、総合性を活かしながら、我が国の行政を担っていきます。

総務省の組織	P.1		
先輩からのメッセージ (本省)		先輩からのメッセージ (地方自治体・出向・海外)	
地方自治行政	P.3	管区行政評価局	P.19
放送・情報通信・郵政行政	P.7	総合通信局	P.20
行政制度の管理運営	P.11	地方自治体	P.21
		霞ヶ関(他省庁)	P.24
若手職員対談	P.15	海外	P.25
若手職員の1日	P.17	国際機関	P.26
		海外留学	P.27
		オフィス改革の取り組み	P.28
		キャリアパス	P.29
		ワークライフバランス	P.33
		新人職員からのメッセージ	P.35
		採用情報	P.39
		採用Q&A	P.40
		採用チームからのメッセージ	P.41

総務省の組織

総務 大臣

総務副大臣(2名)	総務大臣政務官(3名)
総務事務次官	総務審議官(3名)

施設等機関

自治大学校
情報通信政策研究所
統計研究研修所

特別の機関

中央選挙管理会
政治資金適正化委員会
[自治紛争処理委員]
※事件ごとに総務大臣が任命

地方支分部局

管区行政評価局(北海道・東北・関東・中部・近畿・中国四国・九州)
四国行政評価支局
沖縄行政評価事務所
総合通信局(北海道・東北・関東・信越・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州)
沖縄総合通信事務所





自治行政局地域自立応援課
人材力活性化・連携交流係長

深野 竜太 FUKANO RYOTA

平成25年10月 総務省採用
自治行政局選挙部管理課
平成27年 4月 高知県総務部市町村振興課主事
平成28年 4月 同 政策企画課
平成29年 4月 地方公務員災害補償基金総務課主事
(兼 監事付)
(命 地方公務員災害補償基金情報公開・
個人情報保護審査会書記)
平成31年 4月 総務省自治行政局行政課総務室
令和 元年10月 同 自治行政局行政課総務室人事係長
令和 2年11月 同 自治行政局公務員部福利課管理第一係長
(自治行政局公務員部福利課管理第二係長併任)
令和 4年 4月 同 自治行政局地域自立応援課
人材力活性化・連携交流係長
(自治行政局地域自立応援課
人材力活性化・連携交流室併任)
令和 4年10月 (自治行政局地域政策課
地域力創造事業活用推進室員)

“地域のため”想いを一つに

地域の自立を応援する

子どもに「パパの仕事は何？」と聞かれたら答えに悩みます。格好つけて「日本を元気にする仕事」なんて言うてしまうかも。でもそれは少し話を盛りすぎですね…。

「地域おこし協力隊」と呼ばれる人々が地域活性化のために全国各地で活動しています(ご存じでなければ、FacebookやYouTube等で関連情報を発信していますので、ぜひ検索してみてください。)

協力隊も「人」ですからそれぞれに想いがあります。皆さんと同じように人間関係や自らの将来について悩むこともあります。協力隊がそれぞれの地域で迷いなく活動できるようにサポートすることが私の仕事です。協力隊の元気が地域の元気、日本の元気となるように私にできることに取り組んでいます。

立場は違っても想いは同じ

「地域おこし協力隊」の実施主体は自治体です。自治体ごとに制度の活用状況は異なりますが、受入自治体の担当職員の方々に共通するのは地域への想いです。その想いにより「地域おこし協力隊」は今や総務省を代表すると言っても過言ではないくらいの制度になりました。

協力隊も然り、受入自治体も然り、それぞれの地域のために頑張る姿に私も刺激をもらっていて、日々、全国各地のいろんな人の顔を思い浮かべながら仕事をしています。

総務省では、自治体からの派遣職員と一緒に働いたり、自ら自治体に出向したりすることでいろいろな方向から地域を見ることが出来ます。

皆さんと、地域のために想いを一つにして一緒に働けることを期待しています。

Private Time

月並みですが、家族の存在が私の支えになっています。特に子どもが楽しく過ごしている姿を見ると前向きな気持ちになります。(冒頭の話に戻ると、)総務省の仕事を一言で説明するのは難しいですが、子どもに誇れる仕事だと思っています。子ども達が元気でいられる社会をつくっていくことも大人である私の大事な仕事です…。



Week Schedule

Monday

お休み：子どもの運動会。リレーで子どもが走る姿を見て感動してしまいました。

Tuesday

関係者との打合せ：総務省が実施する事業の方針等について関係者と打合せを行います。

Wednesday

出張(1日目)：県主催の研修会に参加。総務省の立場から制度等に関して説明します。

Thursday

出張(2日目)：地元の方の案内で協力隊OBが経営するゲストハウス等を視察します。

Friday

資料作成等：来年度の予算要求に向けて課内で検討した内容をもとに資料を作成します。



自治財政局調整課企画係長

喜久里 彩芳 KIKUZATO AYAKA

平成27年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成28年 4月 同 自治税務局市町村税課
平成29年 4月 福井県総務部市町村振興課
(選挙管理委員会書記併任)
平成31年 4月 総務省自治税務局企画課
令和 3年 4月 同 自治財政局調整課企画係長
(自治財政局財政課復興特別交付税室員併任)

「地方のために」を仕事に

国の政策決定の最前線

霞ヶ関には厚生労働省や文部科学省など様々な省庁があり、所管行政について政策の企画立案を行っています。その政策の多くの担い手は地方公共団体であり、地方公共団体の一定の財政負担を伴うものです。私の所属する調整課では、各省庁の政策の検討にあたり、国と地方の役割分担を踏まえ、財政負担の割合が適切か、負担が適切だとして、地方公共団体の負担を軽減するためにどのような地方財政措置を採り得るかについて、各省庁と調整を行います。

私は主に国土交通省との調整を担当していますが、今まさに世の中で話題となっているトピックが日々課内に飛び交っており、国の施策の最前線としての刺激と緊張感に満ちた職場です。

総務省だからできること

学生時代、職業を通じてどのように社会に関わっていきたく考えたとき、幅広い行政を所管しながらも、根幹にある地方自治という制度を通じて、「地方のために何が出来るか」に向き合うことを仕事にできる総務省に魅力を感じました。

その答え合わせは、例えばこの1年、人口減少や過疎化の進行等により危機的状況にあるローカル鉄道について、持続可能性の高い地域公共交通に再構築していくための新しい制度の検討を行いました。国土交通省が議論を主導するなか、総務省として地方公共団体が前向きに課題へ取り組めるよう、地方財政の立場から制度設計に携わりました。こうした経験から、学生時代の選択は間違っていなかったかなと感じています。

Private Time

休日は、夫と近所を散歩したり、手の込んだ料理を一緒につくったりして、リラックスして過ごしています。また、休日の夜はカクテルづくりを楽しんでいて、レパートリーを増やすべく、日々研究しています。



Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

A 大学入学の年に東日本大震災が発生しました。仮設住宅でのボランティアとして4年間被災地に通う中で、人々の生活を営む土地への思いに触れ、安定した行政サービスを通じて暮らしを守ることの大切さを感じました。そして、日本全国の多種多様な魅力を持った地域と関わることができ、そこで生きる人々の暮らしを支えるために仕事ができる総務省に関心を持ちました。

Q 自治体での赴任経験が総務省の業務に活かした経験はありますか？

A 入省して間もなく2年間福井県に出向しました。福井県では県内市町の決算分析などの業務を担当する他、県内の様々な地域を訪れました。総務省に戻ってからは、地方公共団体への照会一つをとっても、照会を受ける地方の現場が困らないか、趣旨が正確に伝わるかなど、地方の立場になって考える習慣ができました。



自治税務局企画課調査第一係長
山西 幸之助 YAMANISHI KONOSUKE

平成26年 4月 総務省採用
 自治税務局企画課総務室
 平成27年 4月 同 自治税務局企画課
 平成28年 4月 北海道総合政策部地域主権・行政局市町村課
 (選挙管理委員会併任)
 平成29年10月 総務省消防庁総務課
 平成31年 4月 同 自治税務局固定資産税課
 (自治税務局都道府県税課併任)
 令和 2年 4月 同 自治税務局固定資産税課主査
 令和 3年 4月 同 自治税務局企画課調査第一係長
 (自治税務局企画課課外税制専門官併任)

ふるさとのために

地方税収を読み解く

地方税は、地方団体が行う教育や福祉などの行政サービスを支えており、これらの行政サービスを全国どこでも受けることができるよう、偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系を構築し、その充実・確保を図るための施策を考えることが我々に課された使命だと考えています。

この使命を全うするため、どのような施策を行えば効果的なのか考えるにあたって、地方団体の決算をもとに、税収がどのように推移しているか、増減の要因は何かを様々なデータを用いて適切に分析することが求められますが、この分析をしていると意外な出来事が税収に影響を及ぼしていることが分かったりと、日々新たな発見の毎日です。

地方の声とともに

総務省に入ると驚くのは地方自治体から来られている職員の多さではないでしょうか。

実は、総務省の地方自治に関わる部局では、地方自治体の仕事と密接に関連するため、日本全国様々な自治体の職員と一緒に仕事をしています。地方自治体から来られている職員は、その分野の実務を経験されている方が多く、その実務経験を頼りにしつつ、どうしたら上手く制度が機能するかを検討しながら業務を進めることができます。

実務の声をしっかりと反映しつつ業務を進められるのは、総務省の地方自治分野ならではの魅力だと私は思っています。皆さんとも一緒に議論し、新たな制度設計ができる日を楽しみにしています。

Private Time

休日は、美味しいものを食べに行ったり、旅行に行くことが多いです。仕事のことは忘れて、家族と一緒に全力で休日を楽しむのが大切だと思っています。



Week Schedule

- Monday**
 1週間の予定を確認しつつ、週末の局議に向けて資料作りを開始!
- Tuesday**
 関係省庁などとやり取りをしつつ、資料に必要なデータを収集します。
- Wednesday**
 局議資料案を上司と打ち合わせ。指摘を踏まえて資料を修正します。
- Thursday**
 局議を行い、検討課題の処理について幹部の了解を得られました。
- Friday**
 翌週までに終わらせなければいけない業務などを整理し、気持ちよく週末へ!



消防庁国民保護・防災部
 防災課地域防災室
野崎 みのり NOSAKI MINORI

平成31年 4月 総務省採用
 大臣官房秘書課
 (消防庁総務課併任)~R1.9
 令和 元年10月 同 自治財政局公営企業課
 令和 2年11月 和歌山県総務部総務管理局市町村課
 令和 4年 4月 総務省消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室

地域防災の中核は消防団にあり!

消防団員募集中!

消防庁は、火災の予防や消火、救急、救助など消防行政を行う総務省の外局ですが、私が所属する地域防災室は、消防団や自主防災組織等に関する業務を担当します。消防団員は、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う非常勤特別職の地方公務員で、消防職員数の約5倍にも相当する地域防災力の要です。しかし、消防団員数は年々減少しており、かつては100万人いた団員数は、令和4年4月1日時点で80万人を切るほど減少してしまいました。団員減少を食い止めるよう、地域防災室では、団員の処遇改善や女性・若者を対象とした広報や入団促進施策等、様々な取組を行っています。



お笑いコンビ「和牛」と打ち合わせ

異動のたびに広がる視野

入省後は、大体2年周期で異動することになりますが、異動を重ねる毎に多面的な視点で地方自治業務について考えられるようになります。私が所属する地域防災室は、事業を沢山持っている部署で出張の機会にも恵まれています。事業や制度の概要は分かっていたつもりでも、現地で事業を自分の目で確かめて初めて気づくことが多く、現場を見ることの大切さを実感しました。和歌山県庁へ出向した際には、県職員、市町村研修生や市町村職員の方との関わり合いの中で都道府県、市町村の立場に立って物事を考える重要性を教わりました。様々な経験を通して成長し、自分の生まれ育った故郷、お世話になった故郷に恩返しができる職場が総務省です。

Private Time

機会を見つけては、出向していた和歌山県に遊びに行きます。出向した県は、第二の故郷のような存在になります。夏は海が綺麗で、冬は温泉やクエ鍋を楽しめる和歌山。アドベンチャーワールドの動物たちはいつ行っても元気に迎えてくれます。人生で1度は行ってみたいですね。





国際戦略局国際戦略課課長補佐
丸山 祐輔 MARUYAMA YUSUKE

平成17年10月 総務省採用
郵政行政局信書便事業課
平成20年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部高度通信網振興課
平成21年 4月 総合通信基盤局総務課
平成22年 8月 日墨研修(メキシコ留学)
平成23年 7月 大臣官房会計課
平成24年 8月 総合通信基盤局電波部電波政策課
電波利用科企画室経済係長
平成26年 8月 大臣官房政策評価広報課広報室報道係長
平成28年 7月 大臣官房会計課予算総括係長
平成29年 6月 情報流通行政局衛星・地域放送課
地域放送推進室主査
平成30年 1月 情報流通行政局衛星・地域放送課
地域放送推進室高度化推進係長
平成30年 6月 在ベルー日本国大使館二等書記官
令和 3年 7月 情報流通行政局放送政策課計画係長
令和 4年 7月 現職



情報流通行政局放送政策課係員
野木 彩夏 NOGI AYAKA

平成31年 4月 総務省採用
情報流通行政局情報流通振興課
令和 元年 6月 情報流通行政局地域通信振興課地方情報化推進室
令和 2年 4月 情報流通行政局地域通信振興課デジタル経済推進室
令和 3年 7月 現職

デジタル分野での国際連携強化に向けて

国際連携は喫緊の課題

ウクライナ危機が長期化し、安全保障をはじめとした国際連携がより一層重要になっている中で、今年G7サミット(主要国首脳会議)が広島で開催されます。デジタル分野でもその重要性は変わらず、関係閣僚会合として「G7デジタル・技術大臣会合」が群馬県高崎市で行われます。

私は現在、大臣会合で日本の取組や先進技術をアピールするための展示や広報を担当しています。円滑な会合開催はもちろん、日本の高い技術力をアピールし、日本がデジタル分野でのG7各国と連携したルール作りを主導していけるよう、日々準備を進めています。

多様な仕事と人とのつながり

役所の仕事=退屈なデスクワークと考えられている方も多いと思いますが、私は入省5年目にメキシコへ語学留学したり、2018年から赴任した在ベルー日本国大使館では、通信・経済関係の本来業務に加えて、コロナ禍で出国できなくなった邦人の帰国を支援する領事業務を経験しました。また、前の職場では、国際電気通信連合(ITU)の局長選挙に立候補した尾上氏の当選を目指して、これまで学んだスペイン語で中南米各国の代表団へ支持要請の働きかけを行ったことも印象に残っています。

総務省は、希望すれば挑戦する機会が与えられ、役所の中だけでなく民間企業や海外の方と関わる機会が多い職場だと感じています。

Private Time

旅行が好きなので、週末にふらっと温泉に行くこともあります。コロナの影響でなかなか海外には行けませんが、昨年は出張で訪れたルーマニアで休日に塩鉱山を見学しました。コロナと仕事が落ち着いたらまとまった休暇を取って、ペルーを再訪できたらなあと思っています。



Q 総務省(各系統)を志望した理由は何かですか?

A もともとテレビやラジオが好きで放送に関わる仕事がしたいと思っていたこと、就職活動で自分の性格に合う仕事は何かと考えた結果、総務省を志望しました。入省以降、郵便や通信、放送などの主に制度作りですが、情報を伝える仕事という意味では当初の希望が叶ったと思っています。

Q 海外での赴任経験が総務省の業務にどのように活かされていますか?

A 私が留学・赴任した中南米は良くも悪くも適当で陽気なラテンの国だったので、多少物事が予定どおりに進まなくても臨機応変に対応できるようになりました。省内でもお役所仕事の改革が進んでおり、今後も職場環境の更なる改善が期待されます。

変化に対応した制度作り

放送分野のこれから

私が働いている放送政策課では、人口減少の加速化、情報空間の放送以外への広がり、広告市場の縮小等近年の放送を取り巻く環境の変化を踏まえ、放送制度の在り方について、検討会を開催し、そこで示された方向性を基に制度の見直しを行っています。放送は、災害情報や地域情報の共有、取材に裏打ちされた信頼性の高い情報発信といった役割があり、これらを今後も維持・発展させていくため、放送事業者の経営の選択肢を拡大する観点から制度の見直しを検討しています。実際に制度化するにあたっては、現行制度の分析・理解、また、参考となる他制度を分析する等、多くの知識を必要としますが、より良い制度・未来に向け、チーム一丸となって仕事をしています。

道しるべを作る

以前は、スマートシティの推進を担当していました。スマートシティとは、ICTを活用し、地域の抱える諸課題の解決を行い、新たな価値を創出し続ける、持続可能な地域を言います。自治体によっては、ICTをどう活用すべきか、様々な業種・関係者との調整をどう進めるべきか悩む声がありました。そこで、総務省では、他府省と共同し、企業や先行する自治体にヒアリングを行い、スマートシティの進め方、国内外の先行事例における成功・失敗体験等を調査し、ガイドブックを作成しました。まず、国が先陣を切り、物事を進めていくことは、時に重要であり、総務省ならではのやりがいのある業務だと思います。

Private Time

休日は、同期や友人と旅行に行くことが多いです。旅行先では、その土地の美味しいご飯を食べたり、自然に触れ合ったりと気持ちをリフレッシュさせています。年次休暇も取りやすいので、休暇を繋げて遠出することもよくあります。

Q 実際に働いてみて、入省前のイメージと違ったことは?

A 1日中パソコンに向かって事務仕事をするというイメージがありましたが、想像よりも人との関わりが多いです。総務省では、若手であっても、自由に自分の意見を言える雰囲気があり、主体的に仕事に向き合いたい人にピッタリの仕事だと思います。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージをお願いします。

A 公務員は、試験勉強もあり大変ですが、「自分が何に興味があるか」「自分は何をしたいか」を考えることがすごく大切だと思います。そのため、気になる府省庁等の説明会には出来る限り参加し、考えるきっかけを作ることが大事だと思います。是非総務省の説明会にも足を運んでいただき、業務内容や総務省職員の人柄を見に来ていただければと思います。





サイバーセキュリティ統括官室主査

服部 裕史 HATTORI YUJI

平成22年 4月 総務省採用
 総合通信基盤局電波部電波政策課
 平成23年 4月 総合通信基盤局電波部移動通信課
 平成25年 7月 総合通信基盤局電波部消費者行政課
 平成27年 8月 情報流通行政局衛星・地域放送課
 平成29年 7月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
 航空係長
 令和 元年 7月 総合通信基盤局電波部電波政策課開発係長
 令和 3年 4月 現職



総合通信基盤局電気通信事業部
 消費者行政第二課調査係長

岩井 優介 IWAI YUSUKE

平成27年 4月 総務省採用
 情報通信国際戦略局国際政策課
 平成29年 7月 大臣官房総務課
 令和 元年 7月 サイバーセキュリティ統括官付参事官付
 令和 2年11月 情報通信政策研究所調査研究部
 令和 4年 6月 現職

正解のない道を進む

安心・安全なインターネット利用環境の整備

インターネットを活用したSNS等の新たなサービスは我々の生活をより便利にする一方で、誹謗中傷を含む名誉毀損やプライバシー侵害、海賊版サイトによる著作権侵害の問題も深刻化させています。

私が所属する消費者行政第二課では、こうしたインターネット上の違法・有害情報に対し、法律の整備やその円滑な運用のための事業者等によるガイドライン作成等の支援、相談窓口の設置・運営等の取組を関係者と連携しながら進めています。

働きやすい職場

総務省は、職員の様々な働き方をサポートしてくれる職場です。私は、現職の直前、配偶者同行休業制度を活用し、妻の海外赴任に帯同していました。男性による当制度の利用を聞いたことがなかったので、制度の利用やその承認について心配していましたが、人事担当や上司にも相談したところ、どの方も快く送り出してくれました。多様な働き方を支援する制度の整備のみならず、その活用を後押ししてくれるのも魅力の一つに思います。

日本のサイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ人材の育成

私は現在サイバーセキュリティに係る仕事をしており、その中でも人材育成業務を担当しています。現在、サイバー攻撃の悪質化・巧妙化が進む一方で、我が国のサイバーセキュリティ人材は質的にも量的にも不足しており、その育成が喫緊の課題となっています。それを解消するため、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)と連携し、サイバー攻撃に対する一連の対処を実際に体験する「実践的サイバー防御演習(CYDER)」を国の機関や地方公共団体向けに実施し、組織のインシデント対処能力の向上に貢献しています。そのための調整や、受講結果から見てくる課題を基に、より良い取り組みにするためにはどうしたらいいのかを日々検討しています。

総務省の職場の雰囲気について

入省前に私が持っていた「国家公務員」のイメージは、いわゆる上下関係がしっかりしていて会話も必要最小限といった、堅苦しいイメージでした。しかし、実際に総務省に入ってみると、若い人から年配の人まで仕事をしていますが、役職や採用区分によらず自由闊達に仕事の話ができますし、雑談も交わされる明るい職場でした。実は、職場内のそういう自由な雰囲気は、みんなが話しやすい空気を作るための一環でした。入省後最初はみんな緊張して自分の意見をそのまま伝えることができません。若手が意見できるようにするにはまずは話しやすい職場の空気作りからしていくのが大事だったのだと後で気づきました。

Private Time

総務省では、土日祝日と決まった休みを取得でき、夏には3日間以上の長期休暇を皆が取得可能です。そのため、計画的に旅行に出かけられ、いろんな場所を訪れることができました(コロナ禍前までは)。総務省での仕事は、デスクワークが多いので、日常を忘れ、定期的にリフレッシュすることはとても大事なことです。

- Q** 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？
- A** 入省3年目に行った国際会議が特に印象に残っています。当時消費者行政課にいた私は、カナダのモントリオールで開催された迷惑メール対策機関同士の情報交換等を行う会合に参加しました。本会合は定期的に行われ、例年質疑応答はほぼないと聞いていたのですが、私が発表した時には珍しく質問攻めに合い、対応に苦慮しました。同行した方々の協力で乗り越えられましたが貴重な経験となりました。

- Q** 今後、どのような業務に挑戦したいですか？
- A** 私はこれまで、携帯電話通信、衛星放送、航空無線通信と様々な業務に携わってきました。どれも一から学ぶ内容が多く、トレンドもどんどん変わるのでついていくのが大変です。それでも、今後も情報通信の第一線で活躍していければと考えております。



総合通信基盤局電波部
 基幹・衛星移動通信課衛星推進係長

山下 章夫 YAMASHITA AKIO

平成20年 4月 総務省採用
 総合通信基盤局電気通信事業部
 電気通信技術システム課番号企画室
 平成22年 7月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課
 平成25年 7月 情報通信国際戦略局技術政策課
 研究推進室先端研究係長心得
 平成26年 8月 情報通信国際戦略局技術政策課
 研究推進室先端研究係長
 平成28年 7月 情報通信国際戦略局技術政策課
 研究開発調整係長
 平成29年 7月 国際戦略局技術政策課研究開発調整係長
 平成30年 4月 総合通信基盤局電気通信事業部
 電気通信技術システム課
 安全・信頼性対策室事故分析係長
 令和 2年 8月 総合通信基盤局電波部電波政策課調整係長
 令和 4年 7月 現職

くらしに身近な電波で造る未来

有限希少な電波の有効利用

電波は、携帯電話をはじめ、国民生活には欠かせないサービスや重要な通信に広く用いられています。私は主に衛星通信を行う無線システムの導入に向けた制度整備や許可を担当しています。

最近では、衛星機器の小型軽量化や衛星打上げ費用の低廉化が進んだことにより、官民での衛星開発が活発になっています。特に、多数の小型衛星を低・中軌道に打ち上げて一体的に運用する「衛星コンステレーション」の構築が国内外で進んでおり、航空機や船舶での高速大容量な通信の実現や様々な用途での活用が期待されています。このような新たなシステムの導入に当たっては、同じ周波数を利用する他の無線システムとの共用調整が必要であり、日々取り組んでいます。

広い視野で物事に取り組む

情報通信分野は技術の進歩が速く、また世界的な競争が激しい分野です。日本がその流れに乗り遅れず、新しい技術の発展を妨げないように取り組む一方で、利用者の保護や既存のシステムへの影響に配慮した対応も求められます。広い視野を持ち、様々な観点からの検討が必要であり、バランス感覚が求められ大変な面もありますが、とてもやりがいのある業務だと思います。業務は一人で黙々と進めるわけではありません。現在の職場では、これから益々発展していくことが期待される衛星通信を扱っていますが、海外の動向にも目を向けながら、日本への導入に向けてどのように取り組んでいくべきか、一人で答えを出そうとすると大変ですが、同じ部署に所属する若手の人から上司まで、みんなでアイデアを出し合ったり議論しながらよりよい方法を検討しています。誰も意見でき、楽しく仕事ができる環境だと思います。みなさんも一緒に取り組んでみませんか。



行政評価局政策評価課
客観性担保評価推進室専門官
大辻 江利奈 OTSUJI ERINA

平成17年 4月 総務省(中部管区行政評価局)採用
平成18年 4月 中部管区行政評価局第一部評価監視官付
平成19年 4月 行政評価局総務課業務情報化推進室
併任 行政評価局総務課地方業務室
平成20年 4月 行政評価局総務課(総務係)
平成21年 4月 行政評価局年金記録確認中央第三者委員会
事務局調査員
平成23年 4月 行政評価局政策評価官付
平成24年 7月 会計検査院第4局文部科学検査第1課調査官
平成26年 4月 大臣官房会計課厚生企画管理室宿舎係長
平成27年 8月 行政評価局総務課(総務係)評価監視調査官
行政評価局評価監視調査官(財務、経済産業等担当)
平成30年 4月 内閣官房内閣総務官室
(内閣第3担当主査 兼 官報担当主査)
併任 内閣府大臣官房総務課官報係長
令和 2年 4月 行政評価局評価監視調査官
(法務、外務、経済産業等担当)
令和 2年12月 行政評価局政策評価課
客観性担保評価推進室専門職
令和 4年 4月 行政評価局政策評価課
客観性担保評価推進室専門官
併任 行政評価局政策評価課
客観性担保評価推進室

「霞が関を、社会をよくする」に貢献

諦めない・めげない

主に経理、総務などの業務を担当しました。種々ある規則や運用を学びつつ、実態と照らしておかしいと感じた際は、それらを変えられないか、挑戦もしました。といっても、実際には、上司と一緒に考えてもらい、相手方とこじれば交渉してもらい、うまくまとめられていく過程を学ぶという感じでした。思いが空回りしてご迷惑をおかけしたことも多々ありましたが、諦めない・めげないという姿勢はこのとき培われたと感じます。

出向、行政運営の改善に関する調査

会計検査院や内閣官房への出向を通じ、多様な業務を経験するとともに、外部から評価局を客観的に見ることの面白さ・大切さも学びました。霞が関の人脈も広がりました。また、行政運営の改善に関する調査の設計から取りまとめまで通貫で取り組みました。課題解決に少しでも貢献でき、かつ、現場の実態に合った現実的な方策は何か、議論を重ねる。正解もなく悩みながらの道のりでしたが、刺激的かつ有意義な毎日でした。

社会の変化に柔軟に対応できる行政を目指して

今は、国の政策評価制度(各府省が、自らの政策の見直し・改善に役立てるため、政策効果を把握・分析する制度)を所管する立場にいます。デジタル化や新型コロナなど社会の変化や前例のない課題に柔軟に対応できる行政を目指し、証拠に基づく政策立案(EBPM(Evidence-Based Policy Making))や政策の効果検証を重視した評価が行われるよう、制度の見直しをしています。先行きが不透明な状況だからこそ、政策評価の役割は大きく、やりがいを感じています。

受験者へのメッセージ

社会は急速に変化しており、私たち行政もそのスピードに対応して変わっていく必要があります。新しい行政の在り方を模索することは簡単でなく、試行錯誤がつきものですが、とてもワクワクすることです。霞が関全体が変革まっただ中にあり、そのなかでも行政評価局は、自らも変わり、また各府省の変革を支援しようとする機運にあふれています。ぜひ、興味を持っていただければ幸いです。



行政評価局上席評価監視調査官
(財務、文部科学等担当)
栂場 薫 HASABA KAORU

平成21年 4月 総務省(中部管区行政評価局)採用
平成22年 4月 行政評価局評価監視官付(国土交通担当)
平成23年 4月 行政評価局総務課(審査係)
平成25年 4月 行政評価局評価監視官付
(農林水産、環境、防衛担当)
平成27年 1月 行政評価局行政相談課
平成29年 4月 内閣府本府地方分権改革推進室主査
平成30年 4月 庶務担当主査(政策統括官付統計企画管理官付)
令和 2年 4月 統計審査担当主査(政策統括官付統計審査官付)
令和 3年 4月 大臣官房秘書課主査(職員係)
令和 4年 4月 行政評価局評価監視調査官(財務、文部科学等担当)
令和 4年 8月 併任 行政評価局政策評価課
客観性担保評価推進室

「今できること」の積み重ね

見方が変われば…何が見える？

主に、行政運営上の課題をテーマとして、各府省の業務の実施状況を第三者的に調査し、改善を促す行政評価という業務に従事していました。調査では、何が課題となっているのか、どう改善したらいいのかを的確に捉えるため、各府省だけでなく自治体や民間企業など様々な関係者から現場の声を聞きます。それぞれ見方が変われば意見も変わってくるので、その違いを意識する重要性を特に学んだように思います。

少し広がったフィールド

係長になってからは、他府省など、これまでとは異なる部署での業務を経験しました。他府省や自治体の職員と地方分権に取り組んだり、統計改革の流れの中で統計調査の考え方を学んだり…、業務経験の幅が広がったことはもちろん、この頃に限らずですが、その時々での人との出会いも財産だと思います。通常業務から離れて、急遽発生した案件の対応をすることもありましたが、そのたび、本当に多くの人達に助けられました。

目的に向かってやってみる

今また、行政評価の業務に従事しております。政府全体でEBPMの推進が叫ばれている中、係員時代に力不足で実践できなかった調査のやり方に挑戦するチャンスに恵まれました。自分達の仕事にも絶対的な正解はありませんし、試行錯誤を重ねていくしかありませんが、少しでも行政運営の改善に、ひいては皆の安心につながるような仕事ができればと思います。

受験者へのメッセージ

現在、自分が何をやりたいのか、何ができるのか、悩みながら就活に取り組んでいる方もいらっしゃると思います。行政評価の対象は多岐にわたるため、自分の得意分野や関心のある分野につながることや、また別の分野へ関心を持つきっかけとなることも多く、働いている中でも、色々やりたいことが出てくるのではないのでしょうか。悩んでいる中での選択肢の1つとして、総務省も面白そうと思っていただけたら嬉しいです。



統計局統計情報利用推進課課長補佐
 併任 大臣官房政策立案支援室室長補佐
 併任 統計局統計データ活用センター
 センター長補佐

和田 宏之 WADA HIROYUKI

平成14年 4月 総務省採用
 統計センター人口製表部人口製表第一課
 上席統計製表官付
 平成15年 4月 統計局統計調査部調査企画課情報企画第一係
 平成16年 1月 統計局統計調査部調査企画課首席統計情報官付
 平成18年 4月 人事・恩給局総務課人材情報システム係
 平成20年 4月 人事・恩給局恩給企画課経理室予算第二係
 平成21年 4月 人事・恩給局恩給企画課経理室主査
 平成22年 4月 内閣官房内閣広報室
 平成24年 7月 大臣官房秘書課人事専門職
 平成26年 4月 統計局総務課人事係長
 平成29年 4月 統計局統計調査部国勢統計課
 労働力人口統計室企画指導第一係長
 併任 就業動向指標第二係長
 平成31年 4月 統計局統計調査部国勢統計課
 労働力人口統計室統計専門官
 併任 企画指導第一係長
 令和 2年 3月 統計局統計調査部国勢統計課
 労働力人口統計室課長補佐
 令和 3年 4月 現職

統計で国を支える

統計150年、変革の時代

大隈重信は、「太政官統計院」創設についての建議において、「現在の国勢を詳明せざれば、政府すなわち施政の便を失う。過去施政の結果を鑑照せざれば、政府その政策の利弊を知るに由なし。」と、政策の実施には統計によって国の有り様を正確に把握することが不可欠であると述べた。統計の普遍的な重要性を示すエピソードです。ICTの進化した現代社会において統計は、データサイエンスとして発展し、社会の様々な場面で活用が期待されています。私は現在、統計局の広報業務の一環として、データサイエンス・オンライン講座の企画・提供を行っています。データサイエンスはこれからの時代に必須のツールです。その普及を行い、データサイエンス力の高い人材育成に資するとともに、統計局で実施している統計調査の意義と重要性を広く知ってもらうことで、より良い統計の提供、ひいてはより良い社会のために貢献していきたいと思えます。

昨日より今日、今日よりも明日

統計は、国民の皆様の協力と、調査員、地方公共団体等の多くの関係者の尽力によって作成されています。こうして作成された統計は利活用されて初めて意味のあるものとなります。そのためには、精度の高い統計を提供すること、社会のニーズを把握して利用価値の高い統計を提供すること、利活用しやすい環境を整えること等、様々な取組も必要となります。どの業務にも言えることですが、常に社会とのつながりを意識し、業務全体のあるべき姿を見据え、新しいことにどんどんチャレンジしていくことが大事だと思います。昨日より今日、今日よりも明日、少しでも良い統計を提供したいと努力し続ける人と私は一緒に働きたいと思えます。

Private Time

まとまった時間があるときは、登山に行きます。とても遠くに見えるピークに自分の足でたどり着いた時の達成感、山頂から広がる雄大な景色を目にした時の解放感は言葉では表すことができません。また、最近は控え目にしていますが、友人と美味しいお酒を酌み交わすこともたまの幸せです。



- Q** 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？
- A** 労働力調査の企画・実施に携わったことです。調査事項の変更やオンライン調査の導入、新型コロナウイルス感染症への対応等、前例のない事態への対応が求められる中で、自分一人ではとても達成できないようなことを、上司や同僚等と協力し合い、乗り越えられたことは、非常に大きな経験です。また、ジュネーブでILOの国際会議に参加したことも、視野を広げる貴重な機会になりました。
- Q** 仕事をする上で心がけていることはなんですか？
- A** 現場に足を運ぶこと、自分の頭で考えること、人の意見に耳を傾けることを心がけています。また、達成すべきゴールは何か。そのために何をすれば良いのか。それを考えれば、自ずと自身がやらなければならないことが明らかになると思います。その上で、ゴールに向かって一步一步着実に進むことを心がけています。



統計局統計調査部経済統計課
 経済センサス室基礎調査企画係

齋藤 尚志 SAITO NAOSHI

平成28年 4月 総務省採用
 統計局統計調査部国勢統計課企画係
 統計局統計調査部経済統計課
 経済センサス室基礎調査企画係
 併任 統計局統計調査部経済統計課
 経済センサス室基礎調査指導係
 併任 統計局事業所情報管理課
 情報解析第一係
 併任 統計局事業所情報管理課
 情報解析第二係



統計局統計調査部消費統計課
 物価統計室物価指数第二係

川田 佳 KAWADA KEI

令和 2年 4月 総務省採用
 統計局統計調査部経済統計課経済センサス室
 基礎調査審査発表係
 併任 統計局事業所情報管理課
 併任 統計局事業所情報管理課レジスター統計係
 令和 2年 7月 現職
 令和 4年 4月 現職

多くの人と作り上げる統計

あのお店も？全事業所を一斉調査

皆さんは、お気に入りのお店はありますか。私の携わる「経済センサス-基礎調査」では、そのお店を含む、日本全国のすべての事業所を調査し、その基本的構造を明らかにすることを目的としています。コロナ渦といった社会情勢もあり、データに基づく判断がより重要となってきたなかで、より確実・効率的に調査を実施して統計を作成できるよう、調査方法の検討や関係者との調整など、調査準備を日々行っています。

多くの人と達成感を共有

統計調査は、我々職員だけでなく、地方公共団体や統計調査員の方々、事務を受託する民間事業者など、多くの人に関わって行う事業です。前の部署で携わった「令和2年国勢調査」では、様々な難題を皆で考え、協力し合うことで調査を終えることができ、その喜びを分かち合ったことを今でも強く覚えています。多くの人と、大きな事業を一丸となって達成できる、そんな魅力が統計局にはあります。是非、総務省を目指してみてください。

“社会の今を反映する” “正確な”統計

経済の体温計を作る

私は現在、「消費者物価指数」の作成に携わっています。「消費者物価指数」は、消費者が購入する商品(財やサービス)について、物価の変化を総合的かつ客観的に表すもので、日本経済の動きを反映した統計です。経済政策を的確に推進する上で極めて重要な指標でもあり、エネルギー価格や食料品の価格高騰が相次ぐ中、注目度が高く、常に緊張感を持って業務に取り組んでいます。

人として成長できる場所

毎月公表している結果が実際の生活にどれほど影響を及ぼしているのか実感できる日々を過ごしています。統計を社会に公表する身として、「社会の今を反映する」「正確な」統計の作成に尽力しています。そして業務に取り組む一方で、どんな悩みでも相談できる同期や尊敬する上司・先輩職員の方にたくさん出会えました。総務省はスキルアップができると共に、人としても成長できる機会が多い職場だと思っています。



総合通信基盤局
電波部移動通信課
杉浦 匡哉
SUGIURA MASAYA
(令和4年4月入省・一般職事務系)

行政評価局評価監視官付
(連携調査・環境等担当)
赤木 舞
AKAGI MAI
(令和4年4月入省・一般職事務系)

統計局統計調査部
国勢統計課
寺垣内 雅子
TERAGAUCHI MASAKO
(令和3年4月入省・一般職事務系)

消防庁
総務課
加藤 美舞
KATO MIBU
(令和4年4月入省・一般職事務系)

若手職員4名に、総務省を目指したきっかけや実際に働いてみて感じたことを語っていただきました。

まず、簡単に自己紹介をお願いします。

加藤：消防庁の加藤です。埼玉県出身で、現在は都内で一人暮らしをしています。旅行をすることが好きで、連休がとれたら国内を旅行しています。コロナが落ち着いたら海外旅行に行きたいと思っています。

寺垣内：統計局の寺垣内です。生まれも育ちも広島県です。東京に来てからずっとコロナ禍なのですが、落ち着いたら何かスポーツを始めたいです。本日はよろしくお願いたします。

杉浦：総合通信基盤局の杉浦です。東京都出身で、大学は千葉県に通っていました。趣味は旅行と音楽を聴くことで、最近は牛タンにハマっています。

赤木：行政評価局の赤木です。愛知県出身で、大学生の頃に上京してきました。趣味は、色々ありますが、最近はバイクを見に行くことやお菓子作りにはまっています。本日はどうぞよろしくお願いたします。

まずはみなさんが総務省に関心を持ったきっかけ、総務省を選んだ決め手を教えてください。

杉浦：もともと、量子暗号通信・5G・DXなど、今後さらに注目されそうな情報通信分野に興味がありました。情報通信分野の発展にはルール作りが重要であると思ったので、政策の企画・立案にも関わることができる総務省に決めました。



赤木：私は行政評価という行政全体をより良くするための調査業務に携わりたと思ったのがきっかけです。

寺垣内：私は通学路に合同庁舎があり国家公務員が身近な存在だったこと、心理学を専攻しており統計が身近だったことと総務省は私にとっての「身近」が溢れていました。説明会に参加した際に職員の方に「絶対に向いている!」とアドバイスいただいたことがきっかけになりました。大学院生時代の研究や国際学会発表の経験を活かせると一番感じたのは総務省だったのと、官庁訪問で職員の方々が優しく朗らかな方ばかりだったのも決め手の一つです。

赤木：私も総務省でやっている業務が魅力的であったことももちろんありますが、一次試験合格者向けの説明会に参加して、働いている人の雰囲気や人柄の良さが一番良いと感じたので、総務省を選びました。

加藤：実は私も官庁訪問前に参加した業務説明会がきっかけです。そこで総務省の業務内容を詳しく知ったのですが、自分の興味のあることと重なっていることに気づき、総務省への関心が一気に高まりました。官庁訪問の時に話ささせていただいた職員の方全員がとて

も優しく、総務省で働けば人間関係で困ることがあまりなさそうだなと思いました。

杉浦：実際に職員の方とお話すると印象が変わりますよね。私も説明会に参加した時に、職員の方々の、人柄や仕事に前向きである姿勢を感じ、この職員の方々と一緒に仕事をしたいと思いました。



赤木：少しでも興味がある方は、ぜひ説明会に参加して職員さんから総務省の雰囲気を感じてもらいたいです。

寺垣内：実際に話してみても伝わる雰囲気もありますよね。ちなみに、統計や情報通信関係の部局は、専門的な知識が必要になるのではと思う方も多いと思いますが、実際は、別の分野を学んでいた職員がたくさんいます。また、入省してからもしっかり研修があるので、安心して仕事に取り組んでいます。

官庁訪問に向けてアドバイスをください!

杉浦：官庁訪問はとても緊張すると思いますが、大事なことは面接官と言葉のキャッチボールをすることです。難しく考えすぎずに、自分がやりたいこととその熱意をしっかりと伝えられるようにすることが大切だと思います。

赤木：確かに官庁訪問初日はとても緊張しましたね。でも面接という意識より、会話を楽しむという意識の方がいいかもしれません。面接官は完璧な答えを求めていなくて、自分の考えを伝えられるか見ていると感じたので、自分の考えをはっきり伝えることが重要だと思います。

加藤：事前に用意していた回答というよりは自分の言葉で伝えるということがとても大事ですよ。

寺垣内：そのためにも学業やアルバイト、といった経験の「引き出し」を沢山用意しておくのがおすすめです。官庁訪問は実際に総務省の職員とお話できる機会なので、総務省を知りたい、ありのままの自分の良さを知ってもらいたい、という気持ちで臨んで欲しいです。

加藤：私は総務省で働きたいという熱意を素直に伝えることが一番重要だと思います。ほどよい緊張感を持って明るくハキハキと自信を持って話せば思いは伝わると思います!

杉浦：官庁訪問はたくさんの面接官とお話するので、その中でしっかりとコミュニケーション

をとることを心がければ良いと思います。官庁訪問を乗り越えればゴールはすぐそこなので頑張ってください!

実際に入省してみて感じたギャップや職場の雰囲気を教えてください。

杉浦：とても賑やかな職場です。入省前は黙々と仕事をしているイメージがあったのですが、雑談も含めてコミュニケーションをとる機会が非常に多いので、質問や相談もしやすくてとても働きやすいです。

寺垣内：私も入省前に持っていた公務員のイメージは淡々と事務作業をしているというものでしたが、実際は、働き方も多様ですし、一緒に仕事をする上司や先輩方は優しい方ばかりです。コロナ渦での入省だったため、始めは周りとのコミュニケーションを心配したりもしましたが、職場は和やかな雰囲気です。毎日楽しく仕事をしています。

加藤：私の職場も明るくいつも賑やかです。また思っていたより働き方が自由でした。時差出勤やテレワークが普通に行われており、業務の都合に合わせて各自休暇も取得しています。上司が休暇を取得するように呼びかけてくださるのは非常にありがたいです。



寺垣内：上司の方から積極的に呼びかけてもらえる若手も休みやすいですよ(笑)

赤木：わかります(笑)入省前は、もっと仕事が大変で帰宅も遅くなるのかなと心配していましたが、平日でも上司が定時退庁を呼びかけてくれるおかげでプライベートの時間がしっかり取れます。また、1年目でも発言ができ、業務に反映されるということが驚きでした。上司がすごく優しいので、仕事がしやすく、分からないことを聞きやすい環境でとても働きやすいです。

加藤：私のいる消防庁は全国の消防本部から派遣されてきている方が多いので、全国各地のお話を聞くことができます。行ってみたい場所が増え、時間があれば行きたいなと思っています。

杉浦：総務省の職員は自治体や支分部局等も含め全国各地から集まっているので、それぞれの地元の話など業務外の話題で盛り上がることもありますよね(笑)。

総務省の魅力は何だと思いますか?

赤木：仕事環境が良く、働きやすいところや発言が1年目から反映されたりするので、成長できる機会が多いところです。また、様々な業務に携わることができ、色々なことが学べるところが他省にはない魅力だと思います。

寺垣内：成長の場が沢山用意されていることです。様々なバックグラウンドを持った先輩がいたり、研修が沢山の用意されていたり総務省の中でももちろんですが、地方や海外といった総務省の外の経験も沢山のチャンスがあります。



杉浦：海外の大使館や地方支所など様々な場所で働くことや、国内外の大学への留学に行くこともできます。自分の希望次第で何でもできるのは総務省のとても魅力的なところですよ。

加藤：地方自治分野では、地方公共団体に意向する機会が設けられています。国の視点も地方の視点も知ることができるのは魅力の一つではないかと思います。まだ行ったことのない地域に行ってみたいです。

最後に受験を考えている方へ、メッセージをお願いします!

加藤：入省してから今まで非常に充実しており、総務省への入省を決めた自分の判断は正しかったなと思っています。自分のやりたいことをよく考え、後悔のない選択をしてほしいです。一緒に働けることを楽しみにしています!

赤木：総務省は、どこよりも仕事のしやすさや居心地の良さは一番だと思います。そして、絶対に自分自身が成長できる場が多くあります。そんな総務省でみなさんと一緒に働ける日を心待ちにしています!

寺垣内：コロナ渦で進路を選択することはきっと沢山の不安があると思いますが、そこで悩んだ経験や受験での出会いは、本当に自分自身の財産になると思います。総務省に興味がある方、ぜひ受験と一緒に働きましょう!

杉浦：総務省は業務の幅やスケールが大きく働いてとても面白い職場です。就活中は悩むことも多いかと思いますが、目標に向けてがんばってください!一緒に働ける日を楽しみにしています!



自治税務局固定資産税課償却資産係
鈴木 美南 SUZUKI MINAMI
令和3年4月採用

地方税制の適正な運用をめざす1日



10:00AM
実地調査の最終確認

一部固定資産税については、総務省で申告を受け付けており、その申告が適正か実際に事業者へ赴いて調査を行います。出発前に調査の最終確認をします。



12:00PM
ランチタイム

調査先の近くでランチをしました。普段は省内で食べることも多いですが、調査では、その土地の名産品を味わうことができます！



14:00PM
実地調査の開始

事業者所有の資料を確認し、申告している金額や資産に誤りがないかを確認します。今回は、都内でしたが、全国各地の事業者へ調査に行きます。



16:30PM
上司への報告

総務省へ戻り、調査の内容等について、上司へ報告をします。調査結果を事業者へ通知する必要があるため、報告が終わり次第、資料を作成します。



18:00PM
事業者への連絡

他にも調査へ行く事業者があるため、事前に、日程調整や必要資料についての連絡をし、今後の実地調査への準備を進めます。



19:00PM
退庁

退庁後は、同期とご飯に行ったり趣味のヨガに行ったりして明日のための英気を養います！

メッセージ

もともと地方自治体に興味がありましたが、日本全体の地方行政に関われることに魅力を感じ入省しました。総務省での仕事はスケールが大きく、自分が携わった仕事が全国の自治体に影響を与えることにやりがいを感じます。また、地方自治体から来られている方も多く、全国各地の方々と一緒に働くことができるのも楽しいです！みなさんを総務省でお待ちしています！



情報流通行政局情報流通振興課
久保 苑絵 KUBO SONOE
令和4年4月採用

デジタル活用支援について考える1日



10:00AM
1日のスケジュール確認

出勤したら、メールチェックを行います。その後、その日の自分のタスクを確認し、1日の課内スケジュールを把握します。円滑な業務遂行のためにも重要な時間です。



12:00PM
ランチタイム

お昼は省内の食堂で食べたりデスクでゆっくりと過ごしたりすることも多いですが、外に食べに出るととてもリフレッシュでき、午後の業務にも集中できます。



13:00PM
事業関係者とのオンライン打合せ

担当する業務である「デジタル活用支援推進事業」の事務局請負事業者の方と定例ミーティングを行います。事業状況の報告を受け、改善点や今後の方向性などを話し合います。



14:30PM
上司へのご相談

打合せの結果を受け、今後必要となる作業を整理し業務分担を行います。上司と相談し、事業の周知広報に向けた資料準備などを担当することになりました。



16:00PM
視察に向けた準備

来週の事業視察に向けて、事業実施団体と調整の連絡などを行います。実際のスマホ講習会の現場を見せて頂く貴重な機会なので、上司をスムーズに案内できるよう準備します。



19:00PM
退庁

一日の仕事を終えた後に同期と食べる美味しいご飯が何よりのご褒美です。金曜日の夜など時間に余裕がある時は、スパでゆっくり休むことにもハマっています！

メッセージ

ICTの利活用に興味があり、総務省に入省しました。実際に「誰一人取り残されないデジタル化」の実現に向けた事業に携わり、とてもやりがいのある仕事だと実感しています。また、知識豊富な上司や、「悩んだらいつでも聞いて！」とサポートして下さる先輩方がたくさんいる職場です。皆さんとお会いできる日を心待ちにしています。



行政評価局総務課総括係
山澤 直生 YAMASAWA NAOKI
令和3年4月採用

世の中の役に立つ行政について考える1日



9:00AM
1日のスケジュール確認

出勤後、まずは今日のスケジュールを係で確認します。その日の流れや、局内のスケジュールを事前に把握することで、業務が円滑に進めることができます。



11:00PM
担当課室と打合せ

行政相談委員制度60周年記念式典の開催に向けて、担当者や打合せをします。打合せの中で、行政相談制度、行政相談委員制度の歴史の深さや、その重要性を感じます。



12:00PM
実態調査

お昼は銀座へ繰り出します。街を練り歩いて、おいしいお店を調査するといったことも仕事のひとつだと、私は思います。



14:00PM
PJ活動風景

行政評価局には、政策の効果を実際に検証してみるといったプロジェクトチームがあり、私も参加しています。とても和やかな雰囲気です。



18:00PM
タスク整理

日中に確認できなかったメールを処理します。明日の準備も終わったら退庁します。今日は打合せをした上司たちとうどんを食べに行きます。



19:00PM
退庁

特段これといった趣味はないですが、おいしいものを食べるのが好きです。写真は「エッジ」の立ったざるうどん。これで明日の仕事にもキレができます。

メッセージ

「どうせ仕事をするなら、世の中の役に立つことがしたい」というぼんやりとした動機で就職活動をしていましたが、そんな私にはかえって行政評価という仕事がぴったりだったのかもしれない。私と同じように志望動機に悩んでいる方がいれば、一人で悩まず、一度説明会などに参加してみると良いかもしれません。きつとなにかヒントをもらえるはずですよ。



九州管区行政評価局
評価監視部評価監視調査官

福岡 太一 FUKUOKA TAICHI

平成30年採用



現場の近くで働く魅力

地方ならではの面白さ

行政評価局の主な仕事は各府省等の業務の現場を調査して改善方を提示することです。私が所属する九州管区行政評価局は総務省の出先機関の一つであり、本省よりも現場に近い立場で調査を行っています。調査ではテーマごとに設定された行政課題(介護、交通、子育て、地域振興etc...)について勉強し、想定される問題点等の仮説を立てて関係機関(市町村やNPO法人等)に対してヒアリングを実施します。

地方ではその土地ならではの苦労や国の制度への不満点等を担当者から直接聴くことができ、それを報告書にとりまとめて本省へ伝えるのが難しくも面白く感じています。

他府省には無い魅力

行政評価局の仕事は自由度が高く、勉強することも沢山あるため、日タルーティーン業務をこなす昔ながらの公務員を想像して入るとミスマッチかもしれません。しかし、行政課題について丁寧に調べ、仮説を立ててヒアリングし、班員と議論しながら調査を上げていく過程は他府省の仕事には無い魅力です。

答えの無い調査をとりまとめる際は悩むこともありますが、そんな時は周りの上司や先輩職員と会話することで解決の糸口が見つかったりします。行政評価局は周り話しやすい雰囲気があるので、入省時から遠慮なく上司にも話しかけて大丈夫です!

行政相談から広がるつながり

行政相談の認知度向上を目指して

皆さんは、総務省の行政相談をご存じですか。総務省の行政相談は、国の行政に関するお困りごとや苦情を、私たち総務省職員と民間のボランティアである行政相談委員が受け付け、その解決を促進する仕組みです。私たちは、本省の方針に基づき、国民の皆様が困ったときに総務省の行政相談を頼っていただけるよう、認知度向上のための効果的な広報を企画、実行し、身近に相談できるよう多くの相談機関を集めた合同行政相談所を開設しています。また、行政相談委員が活動しやすいよう、お祭り等での広報活動のサポートや行政相談委員が受け付けた相談と一緒に対応するなど、様々な支援を行っています。

多くの学びとつながり

行政相談委員との活動には、たくさんの素敵な出会いがあります。行政相談委員は、行政相談に限らず多くの場面で活躍されており、そういった経験も活かして、行政相談がより多くの方に利用いただけるように活動されています。近畿管区行政評価局に配属されて1年も経っていませんが、行政相談委員を通して、学校関係や社会福祉関係など様々な分野の方々と出会い、広報活動等にご協力いただきました。

幅広い分野の方々のお話を聞きながら業務に取り組めるため、毎日たくさんの学びや気づきがありますし、社会人としても日々成長できているのではないかと思います。

皆さんも、総務省で、多くの人とつながってみませんか?



近畿管区行政評価局行政相談課
(併任:首席行政相談官室)

長原 汐里 NAGAHARA SHIORI

令和2年採用



北海道総合通信局
情報通信部情報通信振興課長

田熊 秀行 TAGUMA HIDEYUKI

平成18年採用



試される大地 北海道

179市町村

情報通信振興課では、ローカル5Gの社会実装の推進、スマホ教室の開催に向けた自治体や事業者との調整、光ファイバ整備の促進など、自治体に寄り添いながらICT活用による地域課題解決に資する取組を実施しています。他方、全国の1,741市区町村のうち、北海道には約1割に当たる179の自治体があり、各市町村の特長や抱えている課題は千差万別です。そのようななかで、課題1つ1つを解決していくことはマンパワーも限られており難しい部分も多いですが、自治体、北海道庁、事業者などの関係者が一丸となって課題解決に向けた取組を実施できていることは、大きなやりがいとして感じています。

450km

根室管内への出張において、エゾシカの群れを見つけて物珍しさを感じていましたが、後日の自治体職員とのやり取りで、エゾシカによる農作物の被害と交通事故に悩まされている旨の話がありました。北海道では野生鳥獣の被害が年間54.5億円、エゾシカとの交通事故が年間4,000件も発生しています。このように、現場を確認したり生の声を聴くことにより、問題の本質を捉えることができるのは、総合通信局の強みだと考えます。なお、着任してから半年の間に、根室管内に3回出張しました。札幌市から根室市まで車移動の場合は片道約450km。東京から京都間と同じくらいの距離であり、北海道のスケールの大きさを改めて感じました。

ICTで世界や地域に貢献してみませんか

自治体DXのよきパートナーを目指して

私は現在、東北総合通信局に出向し地方自治体の情報化に携わっています。ICTやDX等の情報通信分野を所管する総務省は、通信インフラやスマートシティ構築のための補助金や専門知識を持つアドバイザーの派遣等、様々な自治体向け支援施策を用意していますが、東北地方だけでも人口百万人を超える大都市から数百人の村まで227もの自治体があり、必要としている支援の内容はそれぞれで異なります。総合通信局は、最も近い位置から自治体職員と共に課題を見極め、「ピッタリはまる」施策を提案し、計画から導入・運用までを伴走するパートナーとなる必要があります。地域住民の暮らしがより便利になるよう、日々活動しています。

情報通信というツールを使ってできること

働くにあたって皆さんはどんな分野の専門家になりたいですか?私は、「情報通信(ICTやDX等)」と思い総務省を選びました。入省後は(ある意味両極端ですが)ICT関係の国際業務と地方自治体の情報化に携わり、日々貴重な知識と経験を得ることができています。情報通信はこれからの世界や日本の課題解決に欠かすことのできない分野です。総務省で身に付く知識と経験は、あなたの専門性となり、きっと将来を切り拓いてくれるのではないのでしょうか。また、総務省は霞ヶ関における働き方改革の旗振り役です。仕事で120%のパフォーマンスを発揮するためにも、柔軟な働き方、様々なキャリアパス、豊富な研修が用意されていることも伝えたいポイントです。



東北総合通信局
情報通信部情報通信振興課企画監理官

長尾 北斗 NAGAO HOKUTO

平成28年採用





岡山県高梁市総務部長
北畑 太一 KITABATAKE TAICHI

平成13年 4月 総務省採用
消防庁消防課
平成14年 4月 同 自治財政局財政課
平成15年 4月 京都府総務部地方課
平成16年10月 公営企業金融公庫管理調査部管理課
平成17年 8月 総務省自治財政局財政課総務室
平成19年 4月 同 大臣官房秘書課人事専門職
平成20年10月 同 大臣官房秘書課主査
平成21年 4月 同 大臣官房秘書課秘書第二係長
平成22年 7月 同 自治財政局財務調査課財政健全化係長
平成23年 4月 同 自治財政局財務調査課公会計係長
平成24年 4月 同 大臣官房秘書課人事第二係長
平成25年 5月 同 大臣官房秘書課主査
平成25年11月 地方公共団体金融機構管理部経理課経理係長
(兼 経営企画部企画課主査)～H27.3
平成26年 4月 同 管理部経理課主査
平成27年 4月 (兼 経営企画部リスク管理統括課主査)
平成28年 4月 (兼 経営企画部企画課主査)～H30.3
平成30年 4月 同 管理部経理課主幹
(兼 経営企画部リスク管理統括課主幹併任)
平成30年10月 総務省政治資金適正化委員会事務局主幹
令和 2年 4月 同 自治行政局選挙部政治資金課主幹
(自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
主幹併任)
(自治行政局選挙部政治資金課政助成室
主幹併任)
令和 3年 4月 高梁市総務部長

「三惚れ」の言葉を胸に

市役所というチームを支える仕事

高梁市は岡山県の中西部に位置し、豊かな自然と備中松山城などの多くの歴史的・文化的遺産に恵まれた人口約2万8千人の小さな自治体です。

私が勤める総務部の役割は“市役所の縁の下の力持ち”です。議会との調整や税制による財源確保、公平公正な入札・契約制度の運用のほか、ヒト(人事)、モノ(市有財産)、財源(予算)を効果的に市役所内に供給し、職員がその力を最大限発揮できるように支えることです。

高梁市役所では約1,100名の職員が様々な地域課題と日々真摯に向き合っています。そうした職員の皆さんとの対話を重ねながら、市役所というチームをより良いものにしていけるところに大きなやり甲斐を感じています。

仕事に惚れろ 地方に惚れろ 女房に惚れろ

総務省には「三惚れ(さんぼれ)主義—仕事に惚れる 地方に惚れる 女房に惚れる—」という組織文化が存在します。「仕事に惚れる」は目の前の仕事に真摯に向き合うこと、「地方に惚れる」は大切なパートナーである地方自治体とその職員の皆さんへの敬意を忘れないこと、「女房に惚れる」は支えてくれる家族への感謝の気持ちを持ち続けることです。私達はこの言葉を胸に霞ヶ関や地方自治体の現場で日々の業務と向き合っています。是非業務説明会や官庁訪問で多くの職員と会って、それぞれの「三惚れ」の物語を聞いてみてください。きっと(私自身もそうであったように)「こういう人達と働きたい」「こんな仕事がしてみたい」が見つかることでしょう。

Private Time

休日の楽しみは自宅近くの農家さんからお借りした畑での野菜作りです。地域の皆さんの多くが農家さんなので、施肥や収穫のタイミングなどプロ目線でのアドバイスをいただけることも。こうした地域の皆さんの温かいサポートのお陰で、その日に採れた旬の野菜をその日に美味しくいただける、とても豊かな食生活を送っています。

Week Schedule

Monday

定例幹部会議。重要案件について市長から直接指示を受けます。

Tuesday

市議会本会議。議員からの質問に丁寧に答弁を行います。

Wednesday

市長への懸案事項の説明。対応方針を説明し、市長の判断を仰ぎます。



Thursday

次年度当初予算のヒアリング。各局からの要求事項をしっかりと聞き取ります。

Friday

職員有志による勉強会。外部講師を招いて地域課題解決のヒントを探ります。



岡山県
県民生活部国際課長

藤村 直貴 FUJIMURA NAOKI

平成15年採用



木津川市
政策監

船岡 悠太 FUNAOKA YUTA

平成23年採用



日本の未来をみすえて

地域の国際化

私は、いま岡山県庁で、国際交流や多文化共生に関する業務などのほか、ウクライナ避難民の支援、倉敷市で開催されるG7倉敷労働雇用大臣会合に関する業務に取り組んでいます。国はもちろんですが、岡山県でも、観光や経済、教育といった面で、海外との交流が不可欠となってきています。また、県内に在住される外国人も増えてきており、生活環境の整備は一層不可欠となります。これからの時代、その傾向はより顕著になるでしょう。これまでの経験を活かしつつ、日本や岡山県の置かれている状況や将来を見据え、地域のためによりよい国際交流のあり方等を検討・整備していくことが、私のミッションです。

やりがいと自身の成長

総務省では地方自治制度や地方財政制度等の業務に携わってきました。幅広い業務を経験した中で感じたことは、総務省は、自治体にとって欠かすことのできない、自治制度や財政制度などの基本的かつ重要な業務を担っているということです。人間の身体でいえば、骨や筋肉、血液等を扱っています。人間は身体が健全であれば、ベストパフォーマンスを発揮できません。自治体も同様で、自治制度や財政制度等がしっかりしていなければ、私がいま担当している業務をはじめ、産業や農業、福祉など様々な行政分野で、安定した行政サービスを提供できなくなります。

総務省の担当分野だけではなく、国や地方が直面する様々な行政課題や将来を考えながら業務に当たりますので、緊張感のある局面が多いですが、それだけにやりがいと自身の成長をもたらしてくれる職場であると私は思います。

様々な出合いで成長を

現場の最前線で市民生活のサポートを

「木津川市政策監の船岡です。」これが私の自己紹介ですが、木津川市ってどこ?政策監って何するの?って思う方もいるかと思います。

木津川市は、京都府南部にあり、京都・大阪中心部から鉄道で60分以内と立地がいい場所にあります。市全体の人口が合併後16年で約1万3千人増加している全国でも珍しい地域です。政策監の業務としては、政策決定過程における会議の調整役、地方創生、コロナ禍で打撃を受けている市民生活のサポートや事業者支援の検討などを担当しています。昨年度には、市独自に22歳以下の児童等一人あたり1万5千円の給付金を子育て世帯へ支援するなど、現場の最前線で市民に必要な施策を職員と考えながら取り組んでいます。

人とのつながりは宝物

どんな職場であっても大変な場面、困難な状況というのは訪れるものだと思います。そんな時一人で抱えこまず多くの人で解決していけば一人の負担は減ります。また、総務省には自治体から派遣されている職員が多数います。現在の私のように自治体で働くことで新たな人脈を作ることができます。多くの地域で様々な人脈があるというのは、仕事だけではなく各地のおすすめスポットを聞けるなどプライベートを充実させることもできます。

「仕事は人ですもの。だからあなたはどこに行っても大丈夫。」この言葉は、私が初の地方赴任である福井県に行く前に大先輩からかけていただいたものです。「人」を大切に総務省で是非働いてみませんか。



鹿児島県
総務部市町村課
福 嶋 雄 地 FUKUSHIMA YUCHI
平成31年採用



熊本県
総務部市町村・税務局市町村課
栗 山 い ず み KURIYAMA IZUMI
令和2年採用



地方の実情を知る

霞ヶ関を飛び出して

私は今、鹿児島県市町村課で市町村財政の分析、地方債の起債事務、地方公営企業の経営に関することなど、主に市町村の財政運営に係るサポートを行っています。鹿児島県は、多くの離島を有し、南北600kmに及ぶ広大な地域は43の市町村で構成されています。現在、その多くの市町村が人口減少や過疎化などにより厳しい財政状況に直面しています。このような状況下で、将来にわたって持続可能な行政サービスを提供できるように財政状況の分析を踏まえた助言や上下水道事業の市町村間の広域連携などに取り組んでいます。

地方勤務は、霞ヶ関からは見えにくい地方の実情を知り、地方のためになる国の制度の在り方を考える重要な機会となっています。

総務省の魅力

総務省の魅力は、地方行財税制、消防など多岐にわたる業務の機会、国と地方の双方の立場を経験できることなど数多くありますが、一番の魅力は、人との「出会い」だと思います。

地方自治の発展のため、最善の形を追求する諸先輩方、ふるさとを元気にするため、地方の現場で日々奮闘する自治体職員の方々、切磋琢磨し、時には助け合い心の支えとなる同期達。こうした方々との「出会い」が自身の「人間力」を育て、人生を豊かにしてくれるからです。職業選択の際に、「どんな人と仕事をするか」が重要な要素の一つになるかと思います。総務省には、皆さんの人生を豊かにする人々との「出会い」が待っています。是非、一度話を聞きに来てください。

学びの多い場所

現場の「熱」

熊本県は、熊本地震や令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けました。現在も復興に向け事業が行われています。要する費用は市町村の収入だけで到底賄えるものではなく、総務省所管の「地方交付税制度」といった国からの財政支援がなされます。私は県の立場から、その制度の運用に携わっています。

地方交付税の算定を通し、各市町村の課題が見えてきます。全市町村を俯瞰できる立場から、情報収集し細かな分析を重ね、解決に向けた助言をする。そんな市町村に寄り添う県庁の方々の「熱」に感銘を受けました。経験しなければ知ることのできない、現場の「熱」を体感することは、今後の総務省人生において貴重なものです。

成長の糧

地方出向ははじめ幅広い経験ができることはもちろん、多様な人と関わることができるのも、総務省ならではの魅力です。私は入省後、様々な立場で幅広い経験をさせてきた上司、県職員や消防吏員と関わり、現在は人口1,000人いないほど小さな村役場の方とも働いています。立場が違えば、経験や考え方、制度の見方が異なり、一つの物事でもそんな考え方もできるのかと、刺激を受けます。

入省間もない頃、上司に「やりたいことをやるのも大事、どんな人と働くかも大事」と教えていただきました。人から学べることは尽きず、人として成長するうえで重要なことと感じます。やりがいでない、自身も成長できる「総務省」の話をぜひ聞きに来てみてください。



内閣官房
内閣人事局主査
河 野 康 紀 KOUNO YASUNORI
平成18年採用



農林水産省大臣官房統計部経営・構造統計課
センサス統計室農林漁業担い手統計班
鷺 住 里 恵 WASHIZUMI RIE
平成29年採用



達成感を味わう

行政組織の在り方の模索

現在、内閣官房内閣人事局に赴任し、担当省庁からの機構・定員要求に対して、審査等を行う業務に従事しています。担当省庁の要求内容についてヒアリング等を行って査定案を立案し、局議等を通じて審査を行い、審査結果を財務省主計局に伝達、政府予算案に反映するという業務です。審査の過程では、限られたリソースの中で、担当省庁が行政需要の変化に対応し、かつ、業務において最大限のパフォーマンスを発揮するための組織の在り方を日々模索します。そのためには担当省庁の業務内容や関係する世の中の動き等を詳細に把握し、深く理解することが重要であり、このことは総務省で携わってきた業務で求められるものと同様です。

やみつきになる達成感をあなたも！

総務省に採用されて以降、主として行政評価局調査を担当してきました。一つの調査テーマに関して勉強を重ね、現場に赴いて調査を行い、行政上の課題・原因を突き止め、解決策を検討します。職場内での、また、相手省庁との議論等を経て調査結果等を取りまとめた報告書を作成し、結果に基づく改善方策等の勧告・公表を行い、マスコミに採り上げられ、改善につながります。この達成感はやみつきになります。

総務省行政評価局が過去にどのような調査を行ってきたのか、その内容、結果、調査後の改善措置状況はHPで知ることができますので、是非チェックしてみてください。あなたが一生をかける仕事があるかもしれません！

日本の「今」をはかる

農林水産業を支える

農林水産省では、「農林業センサス」をはじめとして多くの統計調査を実施しています。農林水産省の統計は、農政を支える情報インフラ整備を目的としており、農業政策と密接にかかわっています。私は現在、「漁業構造動態調査」と「農道整備状況調査」という調査を担当しています。知名度は低いかもしれませんが、水産行政・農業農村整備の推進のため重要な統計調査です。

農道整備状況調査では「RPA」(パソコン上の操作を記録して人の代わりに作業するソフトウェア型のロボットのこと)という技術を導入して、調査票の配布・回収を自動化する取り組みを行っています。新技術を活用した経験は、今後の業務に役立てることができると思っています。

統計を学びながら

「完全失業率」や「空き家率」といった言葉を聞いたことはありませんか？これらは総務省が行っている統計で把握されているものです。統計調査の結果は様々な場面で活用されています。自分たちが公表した数値がその日の新聞などで取り上げられることもあり、社会的な注目度が非常に高いです。何より、統計調査によって得られた日本の「今」が多様な政策の根拠となり、やりがいの大きい仕事です。

「統計」と聞くといかにも理数系の分野だと身構えてしまうかもしれませんが、統計に関する研修制度も充実しており、働きながらじっくり統計を学んでいくことができます。縁の下の力持の「統計」、興味のある方はぜひ総務省へいらしてください。



内閣官房
こども家庭庁設立準備室主査
岩崎 太郎 IWASAKI TARO
平成18年採用



静かに 熱く 一歩ずつ 前へ

こどもたちの明るい未来のために

2023年4月、新たに「こども家庭庁」が設立されます。こちら準備室では、政府全体のこども政策を強力に推進するために必要な予算や組織の検討・要求等に取り組むとともに、こども家庭庁設立を待つことなく、こども政策の充実に向けた数々のミッション(地方自治体との連携、DXの推進等)に臨んでいます。組織関係を担当する私は、何も無いところから局課室や人員体制を構築する難しさに直面しつつ、関係府省や査定当局との調整・折衝を繰り返し、こどもが中心の社会、こどもたちの明るい未来を思い描きながら挑戦の日々です!…と、目指す世の中について少し熱めに語られてしまうのも、国家公務員の魅力の一つだと思います。

総務省のチーム力

私が総務省の魅力と感じているのは、職員同士のチーム力です。印象深い業務の一つに、2021年に発覚した政府統計不正問題への対応があります。緊急点検の実施や改善方策の検討等、統計制度を所管する総務省として迅速な対応が次々と求められる中、結集した職員総出で、各自の経験や知見を寄せ合い課題解決に取り組みました。やると決めたらやる。組織としての行動力が強く印象に残っており、自分がこの場に参画できたことは感慨深いです。このようなチーム力の裏付けには、個々の職員の経験値の高さがあると思っており、バラエティに富んだ業務を色々経験できる環境こそが、強力なチーム力が生まれる所以であり、私の総務省の推しポイントです。

総務省×未来×自分

地方自治×海外×自分

今、僕はシドニーから日本の地方自治体のために働いています。自治体国際化協会は7つの海外事務所を持っており、その1つであるシドニー事務所から地方自治体の国際活動の支援をしています。具体的に言えば、日本とオーストラリア・ニュージーランドの姉妹都市提携や地方自治体による海外調査等の支援、JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)のサポートなどを行っています。海外で日本の地方自治体をどうPRしていくか、事務所の仲間と一緒に日々方法を考えて実践しています。海外と日本の状況や制度の違いに大きな刺激を受けながら、毎日英語と格闘しつつ、明日の日本のために頑張っています!

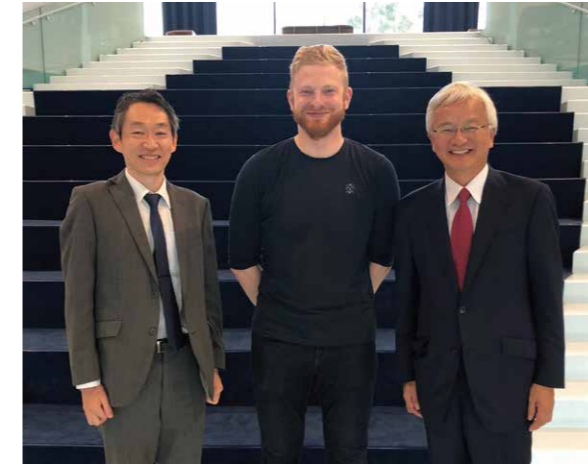
先輩×仲間×自分

皆さんが将来の選択肢を考える時に大切にしてもらいたいことの1つは「人」だと僕は思っています。「何をやるか」だけでなく「誰とやるか」この視点もとても重要です。僕は社会人13年目です。この間、かけがえのない経験をたくさんしました。例えば法律の大改正業務に携わったこと、大規模災害時に広域的視点から地方自治体への支援に携わったこと、それら様々な経験を振り返ると、喜びと達成感、感謝には常に尊敬できる先輩と仲間の存在があったことがわかります。皆さんもぜひたくさんの総務省職員と話をし、この「人」と一緒に働きたい!と思える方を探してみてください。総務省にはそんな先輩がきっといるはずですよ!



(一財)自治体国際化協会シドニー事務所

石田 寛樹 ISHIDA HIROKI
平成22年採用



在エストニア日本国大使館
丸橋 弘人 MARUBASHI HIROHITO
平成15年採用



海外から日本を見つめ直す

北の国エストニアから...

エストニアは、北欧の小さい国ですが、唯一離婚を除きあらゆる行政手続をインターネット上で行える高度にデジタル化された国として、またスタートアップやユニコーンを多数排出する国として知られています。私は日本の行政や社会がよりデジタル化され、人々の利便性が高まるよう、この国の取組や考え方、精神を日本に届けることを仕事としています。例えば、この国では選挙での投票を電子的に行えるほか、個人が異なる医療機関を受診しても治療歴が共有されたり、子どもの出生を一度届け出れば、申請しなくても条件を満たせば自動的に出生手当の交付を受けられたり、該当する時期になると自動的に自宅周辺の学校が案内されたりします。

デジタル化に向けた未来のために

総務省は、地方自治や選挙、情報通信など、日本の行政や社会の運営に不可欠な仕事を行っています。もし記名・押印を要する紙文書での手続がデジタル化されれば、時間と場所の制約や書類の保管・管理から開放され、業務自体の合理化を図れますし、もし行政機関や民間企業の保有する個人の情報を広く相互に参照し合えるようになれば、住所変更等の手続で、一度提出すれば同じ情報を二度提出する必要がなくなり、かつ機関ごとに構築している同様なシステム・データベースを省略できます。このように、私たちはデジタル化により達成される最終的なビジョンを描いて、社会と共有しながら、それに向けて課題の解決に取り組んでいくことができます。

微笑みの国から国際貢献を考える

APTでの業務

わたしの出向しているAsia-Pacific Telecommunity (APT)は、アジア太平洋地域における電気通信及び情報基盤の発展を目的とする国際機関です。主な活動は、APT加盟国を対象に会議を開催し、標準化や無線通信などについてアジア太平洋地域における政策調整をすること、また研修やプロジェクトを通じた人材育成です。

わたしは、若手行政官向けの研修や、加盟国へ専門家を派遣する業務等を担当しています。

電気通信の発展状況も、文化も異なる各国と議論し、調整する業務は、毎日が試行錯誤の日々です。しかし、アジア太平洋地域の発展にどのように貢献できるのかという視点で仕事をするのは、国際機関にいるからこそできる貴重な経験ですし、刺激的でもしるい毎日です。

ICTを通じて社会を変える

総務省では、ICTという最先端の分野を通して、社会をより良く発展させる仕事ができます。医療分野におけるICTの利活用の業務を担当していた際は、ICTシステムを開発する企業、医師、他省庁関係者等と調整し、ICTを通じて患者さんへより早く質の高い医療を提供する後押しをしていました。

また、総務省に入省してから、電気通信市場の分析・検証、ICTインフラの国際展開、医療分野におけるICTの利活用等、様々な分野の業務を経験させていただき、また、行政官国内研究員として大学院で2年間研究する機会をいただきました。

総務省は、幅広い分野で経験が積めることも大きな魅力だと思います。総務省でみなさんと一緒に働けるのを楽しみにしています!



Asia-Pacific Telecommunity (APT)
兼田 千里 KANEDA CHISATO
平成22年採用





メキシコ留学
青木 志帆 AOKI SHIHO
令和元年採用



メキシコでの研修を通して

なぜメキシコ研修？

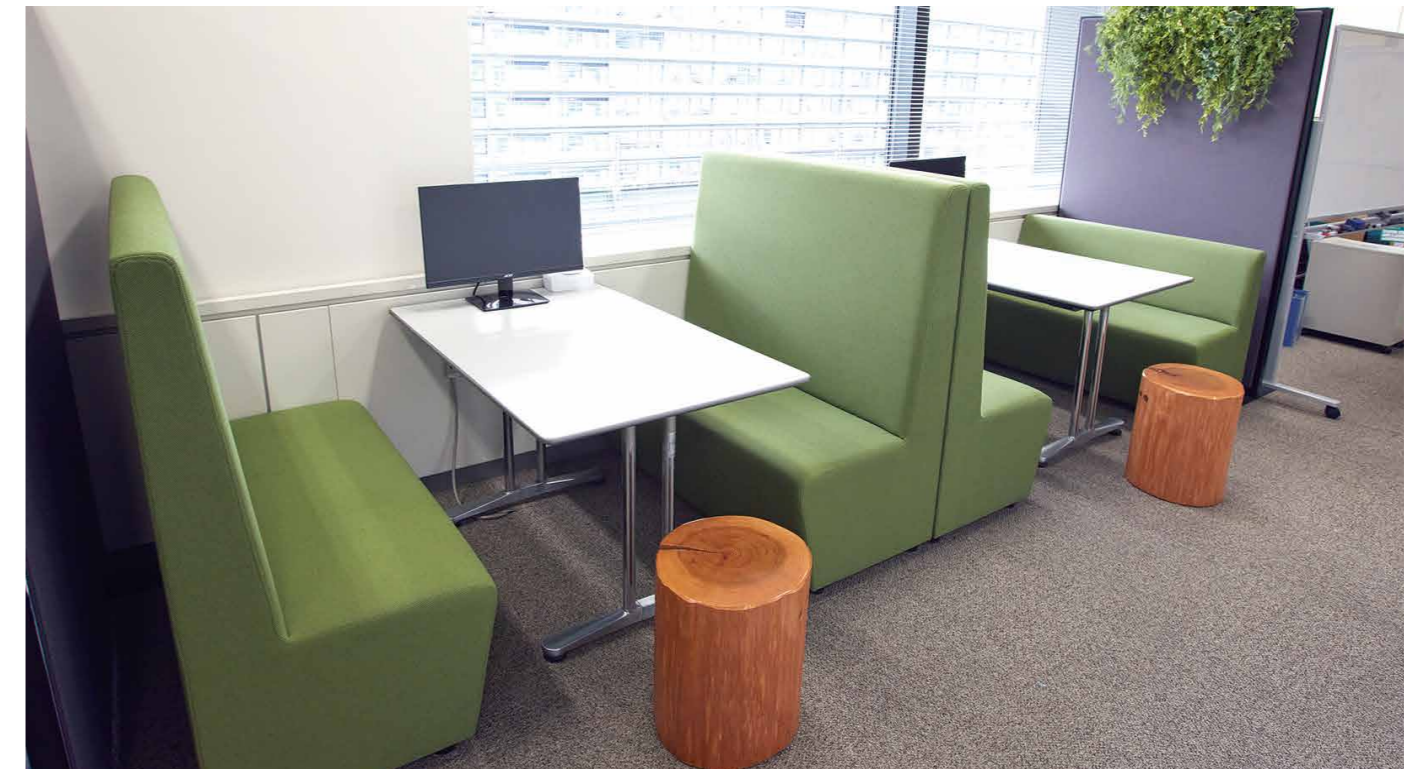
私は現在、研修生としてメキシコ国立大学にてスペイン語やラテン文化を勉強しています。総務省で何故スペイン語?と思われた方も多いのではないのでしょうか。実は総務省の情報通信分野では、日本の経済発展及び他国の課題解決に貢献すべく、日本の質の高いICTの海外展開にも取り組んでおり、そのフィールドは中南米諸国含め世界各国に広がっています。

メキシコでは、ホストファミリー、所属しているスポーツチーム、語学学校での様々な国籍のクラスメート等に囲まれて刺激的な毎日を送っており、本研修で語学はもちろんこれまで全く触れる機会がなかったラテン文化を学べることは、今後のキャリア及び人生にとって大きな財産となると感じています。

温かい職場環境

2年間所属した国際郵便の部署では、国連機関である万国郵便連合(UPU)の担当として、欧州からアフリカまで様々な国の出張に同行し、2国間及び多国間の政策交渉の場を経験させて頂きました。特に、コートジボワールでのUPU大会議にて、約一か月に渡る国際会議及び日本の候補者が事務局長に当選する場に立ち合えたことは、一生忘れられない経験です。

私は元々専門知識や語学力もなく、様々な業務に取り組む中で苦労や失敗も多々ありましたが、上司や同僚の方々に支えられ、徐々に自信と責任を持てる業務の幅が広がっていきました。総務省は若いうちから多くの成長の機会がある職場と感じていますが、それは温かい職場環境があってこそと思います。



～オフィス改革の取り組み～

総務省では職員がより付加価値の高い業務に従事できるよう、働き方改革に取り組んでいます。環境作りの一つとして場所に縛られないオフィス改革を提案、自ら実践しています。



研修制度

総務省では行政官としてのキャリア形成をサポートするため、地方公共団体、民間企業や国際機関との人事交流、国内外の大学等で知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究等、多様な経験を積む機会が用意されています。

階層別研修

現在や将来の役職に相応しい知識や技能習得のため、新規採用職員、係長級、課長補佐級、課長級等、職位に応じた様々な階層別の研修を実施しています。新規職員研修では服務やコンプライアンス、情報公開制度等、国家公務員として相応しい知識と教養を身につけていきます。

専門分野研修

各分野の専門的なスキルを身につけられる研修も豊富に用意されています。統計分野では、統計の基礎知識から統計理論、統計分析まで幅広い研修課程を設けているほか、情報通信分野では、ICTの基礎知識を学ぶ総合研修、無線通信やサイバーセキュリティ等の特定テーマを学ぶ専門研修を受講することができます。

語学研修

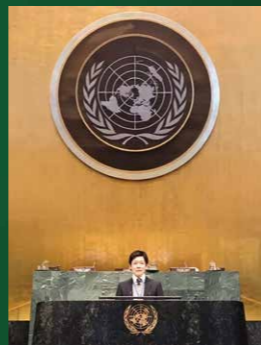
国際舞台で活躍する職員を育成するため、英語等の語学研修を毎年実施しています。日常の業務でのコミュニケーションを円滑にしたい、海外赴任や海外留学に備えて勉強をしたい、将来に向けてスキルアップを図りたいなど、様々なニーズを持つ職員がこの研修を受講し、語学力を高めています。



行政評価局行政相談企画課専門職
石丸 英幸 ISHIMARU HIDEYUKI
平成19年採用

国内外に活躍の場が広がっています。

総務省には、特定の行政分野に限定されず、全ての行政分野が対象となる行政評価という業務があります。また、英語でMinistry of Internal Affairs and Communicationsと表記するためInternal(国内)の業務ばかりを担当しているように思われますが、国際的な業務もたくさんあります。私が公務員になる時、こういう業務に携わりたいという具体的なイメージはありませんでしたが、様々なことに携わることができるという点に魅力を感じて総務省を志望しました。業務の幅は実に無限大であり、どのような公務員生活を送るかは…It's up to you!



平成30～31年度 国連統計部・フェロー

2018年から1年間、ニューヨークにある国連統計部に派遣され、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の進捗を測定すべく、世界共通の統計指標の設定・取りまとめに携っていました。提案された指標の中には、統計が整備されていない途上国では把握することが困難なものも多く、どうすれば世界共通の物差しで進捗が測定できるかといった議論が今も続いています。異国の地で、バックグラウンドも言語も異なる世界中から集まる職員と、「誰も取り残さない」という共通の目標に向かって過ごした日々は大変貴重なものであり、このような経験ができることは、総務省入省当初は全く想像もしていませんでした。

令和4年度～ 行政評価局行政相談企画課・専門職(係長)

業務を「統計」から「行政相談」に移して国際的な業務に従事しています。具体的には、行政に関する相談、苦情等を第三者的な中立の立場から受け付けて改善を図る「オンブズマン制度」を担当する世界中の組織とやり取りし、国際会議への出席や外国要人の来日受入れといった対外的業務のほか、在留外国人からの相談対応にも携わっています。コロナ禍にあっても日本で就労する外国人の数は増え続けおり、外国人特有の相談に対応するため、自分自身が海外で生活して「外国人」であった経験も踏まえながら、全国各地に配置されている行政相談委員向けに研修を実施しています。



平成19～23年度

行政評価局・評価監視官室(係員)

複数府省にまたがって実施されている政策の課題や問題点を把握・分析し、改善方策を提示する「政策評価」に携わっていました。具体的には、訪日外国人を増やそうという政府全体の目標の中で「外国人観光」について、また、連日痛ましい虐待事案が絶えない中で「児童虐待」について、実態を調査し、いずれもその時々のタイムリーな話題を対象としているため、世の中で何か新しい動きはないかと常にアンテナを張りながら業務に就く日々でした。行政評価局が実施する調査は、あらゆる行政分野が調査対象となる可能性があり、業務の幅が広く、自分自身も毎日が勉強でした。

平成27～30年度

政策統括官(統計制度担当)・国際統計管理官室・統計専門職(係長)

例えば、国勢調査のような人口を測定する統計は世界中で実施されていますが、ある程度共通の物差し・ルールを設けないと世界の人口を単純に比較できません。そのような統計における国際ルールを設計する業務の中で、私は主に、各国の物価の比較に関する業務に携わり、世界中に出回っている国際比較に適した品目は何かを議論する国際会議にも参加しました。今でも海外に行くと、日本ではいくらで出回っている商品が、この国ではこんな値段なんだと国際比較することが楽しみになっています。



自治財政局財務調査課財政健全化専門官
併任 自治財政局財務調査課理事官
仁藤 司史 NITO MOTOCHIKA
平成8年採用

多様なフィールドで地方を支える

住民に身近な行政サービスの提供主体である地方自治体を、制度面・財政面で支える総務省。活躍の場は霞ヶ関にとどまらず、時には国家公務員という枠さえ飛び越える、多様なフィールドが用意されています。数多ある仕事・就職先の中から総務省を選ぶという決断は、これから先の「道をひとつに絞る」「可能性を狭める」ことにはなりません。「地方」を支えるなかで、多彩な経験、たくさんのお会い、大きな誇りを手に入れてみませんか。

平成8年度

自治省消防庁救急救助課事務官

消防本部に対する救急車や資機材の補助金に関する業務などを担当。全国津々浦々に影響する仕事であることを実感しました。



平成10～12年度

山梨県リニア交通局交通政策課主事

山梨県庁へ外向。住民に寄り添う身近な行政の役割を身をもって経験しました。休日には山登りや温泉巡りなど、地方勤務を公私ともに満喫しました。

平成16～19年度

在エディンバラ日本国総領事館副領事

副大臣室で係長を務めたあと外務省へ外向し、イギリスへ赴任。スコットランドの政治情勢等の情報収集のほか、経済・文化外交の一端を担いました。G8サミットでは小泉首相(当時)をお迎えし、国際政治の表舞台を目の当たりに。日本国政府の一員として「国」の立場で仕事をすううえでも、「地方」を想う気持ちは欠かせません。地方自治に携わる職員皆が持つその想いを異国の地で改めて強くしました。



平成20～21年度

自治税務局市町村税課 住民税第一係長

税収約13兆円の個人住民税の制度を担当。個人住民税は「地域社会の会費」とも言われ、自治体による行政サービスの貴重な財源として住民の皆さんに広くご負担いただいています。税制は住民生活・経済に影響を及ぼします。税収の確保と公平適正な負担、弱者への配慮等のバランスを図って制度設計し、理論武装、説得力ある資料を作成して与党の税制調査会や国会等の理解を得て法律改正を行うプロセスは、非常にダイナミックで、苦労も多いながら大きな成長、やりがいを感じる仕事でした。

平成26～28年度

青森市財務部長

自治税務局で主幹・課長補佐を務めた後、単身赴任し中核市の財政の責任を担うことに。厳しい財政状況のなか多様な市民ニーズ・行政課題に応えるため、効果的・効率的な財政運営を心がけました。市長の判断に財政面から意見を申し上げるなど、30万人の市民の将来を見据えて政策決定に関与できるのも醍醐味でした。のちに政令指定都市の岡山市にも財政局次長兼財務部長として外向。市役所職員、幹部職員としての現場経験は、県庁とはまた違うリアルな地方自治、新たな気づきを教えてくれました。

令和2～3年度

地方公共団体金融機構資金部資金課・ 資金管理課次長／資金部上席調査役

地方公共団体に長期・低利の資金を融資する地方共同法人にて、年間2兆円を超える資金調達に携わりました。重圧と緊張感のあるエキサイティングな仕事で、金融の世界から地方を支える経験となりました。

令和4年度

自治財政局財務調査課財政健全化専門官併任理事官

現在は地方公共団体の財政の健全化を担当しています。自治体の財政破綻を防ぐには、財政指標に基づくチェック機能や早期の健全化、国等の関与による確実な再生が重要です。膨大な赤字を抱えた北海道夕張市は、全国唯一の財政再生団体として「財政の再生」と「地域の再生」に取り組んでいます。市民の皆さんやまちの将来を思い浮かべながら確実な再生に向けて支援、助言を行うなど、自治体財政の「健康診断」「健康管理」で地方の今と未来を支えています。



総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課課長
廣瀬 照隆 HIROSE TERUTAKA
 平成2年採用

自由で安心・安全なICTの利活用を確保する

ICTの進展は著しいものです。ICTは、かつての電話中心の状況から、インターネット中心の状況に拡大しただけではなく、社会経済活動に不可欠なものとして生活の全てに深く溶け込む存在となりました。これからは、我が国の社会全体のイノベーション促進、DX推進を支える基盤としてとても重要な役割を果たしていくことが期待され、それに当たっては、自由で、安心・安全な利活用を確保する必要があります。こうした将来を見据えたICTに関わる政策に関心のある皆さん、ぜひ総務省と一緒に働きましょう。

平成17年4月 情報通信政策局放送政策課課長補佐

初めての補佐職で放送法の改正を担当しました。大きな改正だったので、企画官以下補佐4人、総勢10人以上の大所帯で、毎日和気藹々と議論を行い、内閣法制局対応、国会対応等、後々にも有用な経験をしました。

平成14年8月 電気通信局電気通信事業部 データ通信課事業振興係長

2度目のデータ通信課で、黎明期に続き、今度は初期のインターネットの拡大、発展といったダイナミックな過程を体感しました。ICTは進展が著しいため、ぼっとしているといけなくなると認識し、そうならないために、インターネット等にかかわる基本的なものの仕組みをきちんと理解しておく必要があると考えた時期です。

平成2年7月 郵政省入省 電気通信局総務課法規係

局の窓口である総務課の法規係で、所管法令の内容、局を跨ぐ業務の流れなど、基本的なことが身についた2年間でした。

入省からのキャリアパス

入省後は、係員・係長・課長補佐等とキャリアを積み重ねながら、主に特定分野の業務(例えば行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信など)を中心に担当します。概ね2~3年に一度人事異動があり、また、本省と地方支分部局との人事交流、地方自治体への派遣、他府省庁や在外機関への出向、国内外の大学への留学など、多様な経験を積む機会があります。

係員級

係長級(20代後半)

課長補佐級(30代後半)

管理職

省の幹部職員へ

平成30年8月

総合通信基盤局電気通信事業部 電気通信技術システム課 安全・信頼性対策室長

初めての管理職で、災害、事故対応を含む電気通信サービスの安全・信頼性の確保を担当しました。着任直前にあった平成30年豪雨では、NTT西日本の局舎が水没し、付近一帯の電気通信サービスが長期間に渡って全て停止する等の被害が生じました。着任直後には北海道胆振東部地震が発生し、地震とそれによる停電でこちらも電気通信サービスが長期間に渡って全て停止し、内閣官房を筆頭とする対応チームの一員として、様々な対応に当たりました。



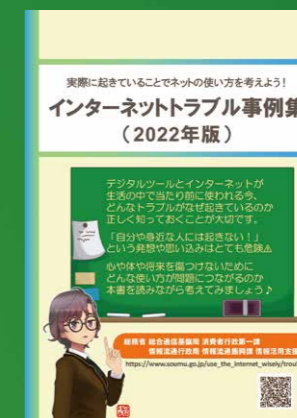
令和4年6月

総合通信基盤局電気通信事業部 消費者行政第一課長(現職)

消費者行政第一課は、電気通信事業における消費者保護ルールの運用と青少年の安全・安心なインターネット利用環境整備を担当しています。前者として、消費者保護ルールのモニタリング、執行、効果の検証・見直しを、後者として、青少年のフィルタリング利用の促進及びインターネットの安心・安全な利用に係る普及・啓発の推進を行っています。これらの業務は生活に深く溶け込んでいるICT利活用を安心・安全に行うためのベースとなるものでありとても重要なことです。インターネットを始めとする電気通信サービスを安心・安全に利活用するためには知っておくべきことが沢山あり、業務の一環としてこうしたことの普及・啓発に努めていますが、なかなか声を届けることが難しいことを実感しています。

平成26年7月 ブラジル大使館一等書記官

2度目の出向として3年間ブラジルのブラジリアにある日本大使館に勤務し、ICT、医療分野の政策協力、経済協力を担当しました。海外においては、日本を含めて各国が様々な省庁と協力体制を構築していることのほか、海外において各国政府が行動の基礎とするもの、海外市場における我が国のICT事業のポジション等についても学ぶことができました。



総務省では職員のライフステージの変化に応じた多様な働き方の実現に積極的に取り組んでおり、各職員が自分にあった働き方で能力を発揮できるような環境が整っています。

多様な働き方の実現

テレワーク

総務省はテレワークの推進官庁でもあり、全職員がテレワークできる環境を整えるなど、職員の積極的なテレワーク利用も推進しています。今後も、日常の働き方として更に定着させるためテレワーク勤務の質の向上などの取組を進めていきます。

早出遅出勤務

1日の勤務時間の長さを変えずに、業務上の必要や育児又は介護、修学等の事情に応じ、始業・終業時刻を繰り上げたり繰り下げたりした勤務時間帯を割り振ることができる制度があります。(例:7:30~16:15、10:00~18:45など)

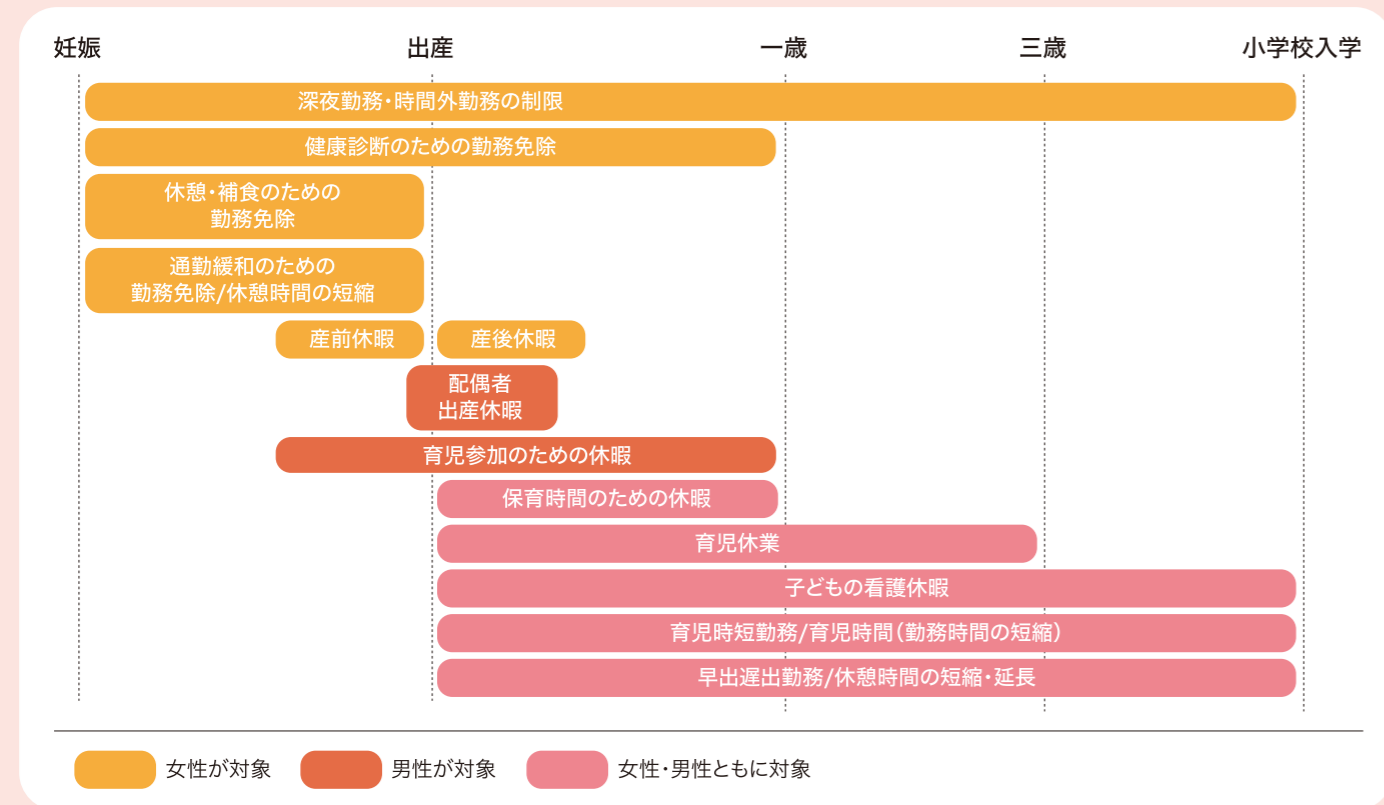
フレックスタイム制

仕事や家庭の状況に応じて、日々の勤務時間を柔軟に設定できる制度があります。(原則4週間の単位期間内で、全体の勤務時間数を変えることなく、1日の勤務時間数を7時間45分以外(最短勤務時間数あり)とすることが可能。)



コアタイム:全員が勤務する必要があります。
フレキシブルタイム:範囲内で、勤務時間を早める(遅らせる)ことや、1日の勤務時間を短く(長く)して、その分他の日の勤務時間を長く(短く)すること等ができます。

仕事と家庭の両立支援制度



早く帰りたい



大臣秘書官室
白倉 拓志 USUKURA TAKUSHI

平成24年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部高度通信網振興課
平成26年 8月 総合通信基盤局総務課
平成28年 7月 情報通信国際戦略局情報通信政策課
平成29年 7月 情報流通行政局情報通信政策課
平成30年 4月 総合通信基盤局電波部移動通信課第一業務係長
令和 2年10月 育児休業
令和 2年12月 総合通信基盤局電波部移動通信課第一業務係長
令和 3年 4月 大臣官房秘書課主査
令和 4年11月 育児休業
令和 5年 1月 現職

『早く帰りたい』これは、仕事をする上で、私が思うことです。なぜか。それは、2児の父であり、育児・家事をしたいからです。

私が現在勤める部署では、早朝勤務と深夜勤務も必要となる時期があるため、早く帰りたい私は、早朝勤務を担当し、子どものお風呂タイムまでには必ず帰るようにしています。「〇時までには絶対帰る」という意識を持つと、効率的な業務遂行を自然と心がけますし、深夜勤務を担当する同僚への引継ぎ等を円滑にするために、コミュニケーションを密に取るようになりました。『早く帰りたい』という字面は、一見ネガティブな印象を与えるかもしれませんが、仕事の仕方にプラスとなる面もあると実感しています。

また、私は、長男・次男の誕生に伴い、それぞれ3カ月程度の育児休業等も取得しました。休業期間中は、職場に迷惑をかけてしまうなどの不安もありましたが、上司へ育休等の取得について相談すると、取得に向けて、すぐに体制整備に取りかかっていただけました。

長い役人生活ですので、これから入省されてくる皆さんも、ライフステージの変化に伴い、何を優先したいかは変わるはずですが、「ワーク」より「ライフ」を優先することは勇気がいりますし、バランスをとることは大変ですが、総務省には、男性であってもこの実現のために応援してくれる方がいますので、変化が訪れた際には、一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。



仕事も子育ても充実したものに



統計局統計情報利用推進課統計編集第一係
兼子 光梨 KANEKO HIKARI

平成26年 4月 総務省採用
統計局統計調査部経済統計課審査発表第一係
平成28年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室企画指導第一係
平成31年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室企画指導係
令和 元年 5月 統計局統計調査部国勢統計課審査発表係
令和 2年 4月 統計局総務課総務係
令和 2年 8月 育児休業
令和 4年 4月 現職

私には2歳になる娘がおり、育休制度は2年間取得しました。育休中は娘の成長を間近で感じながら、たっぷり一緒の時間を過ごすことができました。その育休を終え復職するとき、私が一番不安だったのは、「働きながら子育てって、本当にできるの?」ということでした。働く上ではやりがいやキャリアも大切にしていたのですが、復職時の私にとっては、働きながらも充実した子育てができるかどうか重要な点でした。

復職した現在、私は昼休みを30分短縮し2時間の育児時間を取得して働いています。保育園のお迎え後は、夕食やお風呂とそれなりに忙しいですが、寝る前には夫か私のどちらかが、娘と絵本を読む時間を取るようにし、親子のふれあいも大切にしています。また、週の半分はテレワークを活用しています。通勤時間がない分、業務の時間を長く設定し、まとめて仕事をこなすことで、効率良く働くことができています。

総務省では、子育てと仕事の両立を支援するための制度が整っており、子供との時間を大切にしながら、仕事にも意欲的に取り組める環境を自分自身で作っていくことができます。みなさんも自分に合う働き方を総務省で実現させてみませんか?



MESSAGE 新人職員からのメッセージ



行政管理局企画調整課
野田 勝斗
総務省を選んだ決め手
国家公務員の中でも1番国民に寄り添うことが出来ると考えたからです。



大臣官房会計課
大山 千聖
お気に入りの場所
新宿御苑です。定期内で行けて、自然がたくさん癒やされます。



情報流行政局
情報通信政策課情報通信経済室
西川 英理佳
総務省を選んだ決め手
官庁訪問で職員の方々と話し、職場の雰囲気は想像より堅くなく、働きやすそうと感じた点です。



行政評価局企画課評価活動支援室
炭田 彩夏
ストレス解消法
友人と美味しいものを食べて、お喋りして、買い物をする事です！



情報流行政局郵政行政郵便課
鈴木 元太
受験生へ一言
力を入れすぎず、適度に頑張ることが大事だと思います！



行政評価局評価監視官
(厚生労働等担当)室
横田 直輝
職場の雰囲気
静かで落ち着いていますが、優しい方ばかりで働きやすい職場です。



自治大学校教務部
丸山 眞里佳
総務省を選んだ決め手
大学で学んだ地方自治に興味を持ち、多くの自治体と関われる総務省を選びました。



統計局統計調査部国勢統計課
石鳥 遥海
職場の雰囲気
職場の先輩方は優しく、分からないことがあればすぐに教えていただけるので動きやすい雰囲気です。



大臣官房会計課
滝澤 日菜
総務省を選んだ決め手
地方自治に関わる制度設計に興味があったからです。職員の方々の人の良さにも惹かれました。



統計局統計調査部経済統計課
野村 速斗
受験生へ一言
進路選択は今後の人生を左右します。後悔のないように務めましょう。



総合通信基盤局
電気通信事業部料金サービス課
田鎖 要
職場の雰囲気
適度に緊張感がありつつも、皆で皆既日食を眺めるといった場面もあります。



消防庁消防・救急課
根岸 悠大
ストレス解消法
散歩など外出し、外の景色を見ながら適度な運動を行うことです。



行政評価局評価監視官
(法務、外務、経済産業等担当)室
岩崎 仁美
休日の過ごし方
買い物やおいしいものを食べに出かける、運動する、家でんびり過ごすなど様々です。



自治行政局選挙部政治資金課
支出情報開示室
大澤 咲月
受験生へ一言
睡眠と休憩、外の空気を吸うことはとても大切だと思うので、ストレス過多にならないよう頑張ってください！



大臣官房政策評価広報課
西村 有希子
職場の雰囲気
周りの方が優しく、分からないことがあっても質問や相談がしやすいです。



行政管理局調査法制課法制管理室
宇野 悠希
受験生へ一言
人生の岐路に立ち、緊張や不安も多々感じているかもしれませんが、その中でも自分が将来やりたいこと、ありたい姿をイメージしながら、前向きに歩み続けることを心より応援しています！！



情報流行政局放送政策課
成毛 雄紀
ハマっていること
サイクリングです！ロードバイクで走った後の爽快感や達成感にハマっています。



行政管理局企画調整課
高橋 南帆
やりがいを感じたこと
局内の予算執行が適正に行われるよう管理を行っていることです。



自治行政局
選挙部政治資金課支出情報開示室
朝日 葉月
休日の過ごし方
家で読書、映画鑑賞等です。冬はスキーに行きたいと思っています。



統計局総務課
石田 夏月輝
ハマっていること
定時に寄り道して、都内の有名スポットを散歩することです。



総合通信基盤局
電気通信事業部事業政策課
益田 優佑
休日の過ごし方
友人と会ったり、パン屋さんに行ったりしています。



自治行政局行政課総務室
岡崎 択海
ストレス解消法
スポーツジムで身体を動かしたり、温泉に行って汗を流すことです。



統計局総務課
富手 美里
休日の過ごし方
地元にはないところばかりなので休日は同期と遊んだりしています。



国際戦略局国際協力課
笹木 晴奈
やりがいを感じたこと
入省一年目でも外国政府機関との会議に向けた調整業務全般を任せてもらい、一通りこなせたことです。



統計局統計調査部調査企画課
地理情報室
牟田 壮佑
やりがいを感じたこと
業務の知識が増えて、一人で行えることが増えていくことにやりがいを感ずきます。



大臣官房会計課
永田 裕己
ハマっていること
疲労回復グッズを試すことです。



自治大学校庶務課
坂本 恭子
やりがいを感じたこと
担当業務において、新しい事例や困難な事例を乗り越えた時です。



大臣官房秘書課
熱田 怜英
職場の雰囲気
アットホームな雰囲気です。何か困っていたら助けてもらっており、相談もしやすいです。



大臣官房会計課
清洲 幸恵
休日の過ごし方
健康のためヨガに通い始めました。上達すると褒められて自己肯定感も高まるので最高です。



自治税務局企画課総務室
住田 司
受験生へ一言
将来自分の働くイメージをしなが、受験に取り組んでください！



総合通信基盤局
電波部移動通信課
杉浦 匡哉
お気に入りの場所
10階の自販機ルームからみる東京タワーはとてきれいです！！



総合通信基盤局
電気通信事業部事業政策課
中島 誠人
お気に入りの場所
池袋サンシャイン水族館！年パスは上京してすぐ買いました。

採用情報

説明会のご案内

総務省では国家公務員を目指している方に向けて総務省への業務の理解を深めてもらうため様々な説明会を開催しています。
説明会の最新情報は総務省の一般職採用ページをご覧ください。



総務省HP採用情報

https://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html

人事担当者説明会

採用担当チームから総務省の業務の全体像について説明します。総務省ってどんなところ?総務省って何をやっているところ?といったイメージをつかみたい方にオススメの入門的な説明会です。

政策別説明会

政策の最前線で働いている職員から現在の業務やこれまでの経験談をお話しします。現場の空気を直接感じられる貴重な機会になりますので、是非リアルな声をお聞きください。

若手職員座談会

入省2、3年目の先輩職員と少人数グループでの座談会になります。官庁訪問に向けての準備、総務省に入った決め手、職場の雰囲気やお休みの過ごし方などざくばらんにお話しします。

個別相談会

行政評価・管理、統計、地方自治、情報通信の4つの分野のうち、希望分野毎に少人数で分かれて、採用担当が直接みなさんの質問にお答えします。官庁訪問前に各分野の傾向・対策を聞き出すチャンスです。

過去の採用状況

		令和4年度	令和3年度	令和2年度	
一般職事務系・技術系(大卒程度)	本省採用者	58(21)	55(25)	57(25)	
	地方支分部局採用者	管区行政評価局 行政評価支局 行政評価事務所	31(13)	26(11)	28(12)
		総合通信局 総合通信事務所	52(26)	62(26)	43(21)
一般職事務系(高卒程度)	本省採用者	9(2)	9(3)	10(4)	
女性の割合		42%	43%	45%	

※1:カッコ内の数字は女性の内数。※2:各年度試験には10月等に採用された人も含む



採用関連Q&A

Q1 総務省ではどのような人材を求めていますか?

総務省は、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信といった非常に幅広い分野を所管しており、それに対する課題は日々変化してきます。そういった状況の中で様々な業務や社会経済情勢の急速な変化に柔軟に対応でき、何事にも「チャレンジ」しようとする前向きな方を歓迎しています。

Q2 官庁訪問はどのように進むのですか?

官庁訪問を行う前に、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信の中から希望分野を選んでいただきます。その希望をもとに、現在その分野で働いている職員を中心に面接を行います。ぜひ、官庁訪問を通じて、政策の最前線を体感してください。

Q3 公務員試験の順位や年齢は採用に影響しますか?

点数や順位、年齢は全く関係ありません。「人物本位」での採用を行っているため、官庁訪問ではみなさんの魅力や熱意を存分にアピールしてください。

Q4 統計や情報通信の専門知識や語学のスキルは必要ですか?

入省時に特別な専門知識や語学のスキルは必要ありません。総務省では所管分野と関係のない学問を専攻していた方も多く採用しており、出身学部にかかわらず、様々なフィールドで活躍されています。また、業務に関する専門的な知識や語学については、研修が用意されています。少しでも総務省の業務に興味があれば是非お越しください。

Q5 説明会は参加した方がいいですか?

説明会への参加有無については採用にあたって関係はありません。ただ、総務省で実際に働いている職員の雰囲気を生で感じられるため、是非説明会に参加いただくことをオススメします。

Q6 ジョブローテーションについて教えてください

配属された部署によって異なりますが、多くの人は2~3年に一度別の部署へ異動することとなります。本人の希望・適性に依りて異動し、採用地以外の勤務地へ転勤する場合があります。

Q7 採用後のキャリアステップについて教えてください

一般職で採用となる職員は、入省後、内部部局の課・室において、係員・係長・課長補佐等として、主に特定分野の業務(例えば行政管理、地方自治、情報通信、統計など)を中心に担当することになります。ただし、必ずしも特定分野の業務のみではなく、キャリア形成の過程で、大臣官房や他分野の業務を担当することもあります。また、係員級のうちから本省と地方支分部局を行き来する機会も多くあります。他にも、都道府県や市町村の幹部職員ポスト等への派遣、他府省等や海外の在外機関への出向、国内外の大学等への留学など多様な経験を積む機会があります。

Q8 人事異動について自分の希望は反映されますか?

毎年、今後のキャリアプランについて自分の希望を伝える制度があり、この希望を考慮しつつ適性を踏まえて、配属・異動を決定しています。

message

採用担当からのメッセージ

総務省のパンフレットを見ていただきありがとうございます。

パンフレットを通じて実際に現場で働いている職員の雰囲気が少しでも伝われば嬉しいです。

さて、みなさんは、日々の暮らしに満足していますか？

これがあつたらいいな～

あれができれば便利だな～

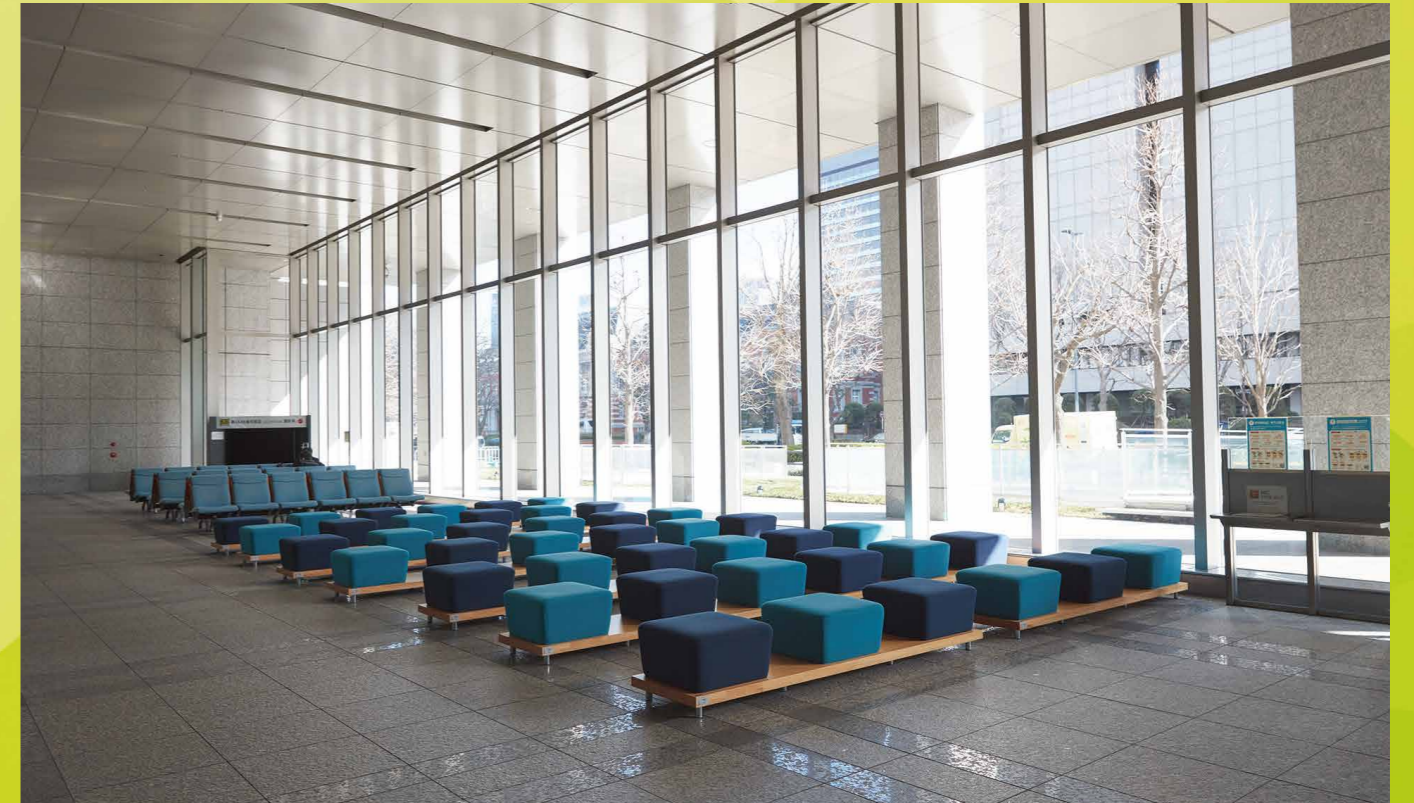
総務省では、複雑化していく社会課題に対応しながらみなさんの生活がより便利で快適になるように日々取り組んでいます。

国の基本的な行政制度の管理・運営、
地方自治や消防・救急行政、情報通信技術 (ICT) を活用した成長戦略の実現と
幅広い分野を担っている総務省だからこそできることがあります。

みなさんが思い描く“より快適な暮らし”を一緒に実現していきましょう。

みなさんの来省を心よりお待ちしております。

採用担当一同





採用に関するお問い合わせ

総務省大臣官房秘書課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2

中央合同庁舎第2号館7階

(代表)TEL.03-5253-5111

(直通)TEL.03-5253-5074・5075



総務省HP採用情報

https://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



Twitter 総務省一般職採用アカウント

(説明会等の採用情報を随時更新しています。)

https://twitter.com/mic_recruit